# サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020における取組結果

参考資料２

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組 | | | | | | | | | | | | |
| 基礎的な取組 | | | | | | | | | | | | |
| | 1.1 | ◆対策に係る情報共有の推進<br>関係省庁及び自治体が優良事例の情報や課題等を共有することを目的としたワークショップを、原則として年1回、関係都県の協力を得ながらサンゴ群集が分布する地域において開催する。 | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | 1.1.1 | H28 | 平成29年2月11～12日に喜界島（鹿児島県喜界町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（フィールドツアー及びサンゴ礁フェス）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | 環境省 | 鹿児島県、WWF-J、自然環境研究センター | H28年度（ワークショップは毎年度開催） | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H29 | 平成30年2月3～4日に宮古島（沖縄県宮古島市）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップとシンポジウムを開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：25名程度） | | 宮古島市、沖縄県、WWF-J、沖縄県環境科学センター | H29年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議（フォローアップワークショップを兼ねる）の開催 | | H30 | 平成30年12月に石垣島（沖縄県石垣市）において、行動計画の達成状況について中間評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議」を開催するとともに、シンポジウムを併せ、計2日間で石垣島において開催した。この中間評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとした。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | | 石垣市、沖縄県 | H30年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | | R1 | 令和元年11月29～30日に与論島（鹿児島県与論町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（シンポジウム及び野外観察会）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：30名程度、野外観察会参加者数：60名程度） | | 与論町、鹿児島県 | R1年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | | | R2 | 令和3年3月に、行動計画の達成状況について最終評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020最終評価会議」をオンライン開催する。この最終評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとする。 | 関係者間の情報共有を進める。 | | | R2年度（ワークショップは毎年度開催） | | |
| | | | | | R3 | 第三期サンゴ礁生態系保全行動計画策定検討委員会を立ち上げ、検討会を2回開催した。専門家の助言のもと、関係省庁、関係地方自治体、日本サンゴ礁学会等の活動主体の協力をえて、令和4年3月に「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」を策定した。 | サンゴ礁生態系保全行動計画が第三期計画に更新された。 | | | R3年度 | https://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/index.html | |
| | 1.2 | ◆対策に係る情報共有の推進。<br>各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためのモデル事業を、1箇所以上で実施する。 | 与論島におけるモデル事業の実施を通じた陸域由来の赤土等の土砂及び栄養塩類への対策推進 | 1.2.1 | H28 | 与論島において、地域が主体となった陸域負荷対策等によるサンゴ礁生態系の回復が行われることを目指し、与論島地下水学会シンポジウムを開催した。 | 与論島の地域社会と結びついたサンゴ礁生態系保全の目指すべき姿について整理できた。 | 環境省 | 与論町、海の再生ネットワークよろん、WWF-J | H28-R2年度 | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H29 | 与論島において、地域が主体となった陸域負荷対策等によるサンゴ礁生態系の回復が行われることを目指し、以下を実施した：<br>地域の体制構築（関係者との打ち合わせによる計画作成）<br>陸域の栄養塩管理実証事業等の実施（農家3軒程度を対象）<br>海域の状況把握（特定の礁池海域を対象に現地調査・シミュレーション等）<br>サンゴ礁生態系のモニタリング調査<br>取組報告会の実施（H30年2月21日） | 島内の保全活動対象地の決定、実証事業の開始等ができた。 | | | | 平成29年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H30 | 与論島において、地域が主体となった陸域負荷対策等によるサンゴ礁生態系の回復が行われることを目指し、今年度は、以下を実施した。<br>海域環境とサンゴ礁の状況把握（測量・海域の水質調査・サンゴの現況観察）<br>陸水の性状把握（地下水の水質調査・表流水の流出状況観察）<br>陸域負荷源の状況把握（施肥,牧畜等負荷量把握・農作地地下水等調査） | 今年度は継続調査と降雨後の表流水調査を追加し、与論町地域振興計画に盛り込んでいくことを共有できた。 | | | | 平成30年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書（予定） | - |
| | | | | | R1 | 与論島において、地域が主体となった陸域負荷対策等によるサンゴ礁生態系の回復が行われることを目指し、以下を実施する。<br>陸域の栄養塩管理実証事業の実施<br>陸域負荷削減・環境改善に関する施策・諸活動に対する方針提言（ワークショップの開催・官民協働による環境教育・普及啓発活動の実施） | 陸域負荷対策における地域課題を抽出し、実効性のある対策が与論町の次期総合計画に反映される目標が設定された。 | | | | 平成31(令和元)年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | |
| | | | | | R2 | 与論島において、地域が主体となった陸域付加対策等によるサンゴ礁生態系の回復が行われることを目指し、陸域の栄養塩管理実証事業と海域への物質流動シミュレーションを実施する。その結果により、陸域からサンゴ礁海域への具体的な負荷軽減対策を構築する。また、その対策案を与論町の第6次総合計画へ反映させることを目的とした、具体的な実行案を提示する。また、官民協働による環境教育・普及啓発活動を実施する。 | 与論島における陸域からサンゴ礁への負荷と軽減対策が示され、その対策が町の施策として実行されるための提言書をとりまとめる。また、児童向け環境教育及び事業成果の町民向け報告会の開催により、地域住民含め情報共有される。 | | | | 令和2年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施報告書(予定) | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土壌流出防止に向けた取組 | | | | | | | | | | | | |
| 総合的な対策 | | | | | | | | | | | | |
| | 1.5 | ◆自然再生事業<br>沖縄県、高知県及び徳島県のサンゴ礁及びサンゴ群集が分布している地域での自然再生事業の実施にあたっては、赤土流出対策や土砂発生源対策などの陸域から流入する負荷への対策の情報共有も<br>実施し、関係者間での連携を促進し、取組を推進する。 | ①沖縄県：<br>石西礁湖自然再生協議会における取組活動<br><br>②高知県：<br>竜串自然再生事業の実施<br><br>③徳島県：<br>竹ヶ島自然再生協議会の開催<br>徳島県、海陽町による調査・実験 | 1.5.1 | H28 | ①<br>石西礁湖自然再生協議会において、当年夏季に発生したサンゴの大規模白化の状況について、情報共有及び意見交換を実施した。<br>②<br>・協議会への参画（3回）：多様な主体による流域での取組との情報共有、「地域の体制づくり」に向けた検討<br>・サンゴの生息状況モニタリング（湾内全域の分布調査を含む）、定点写真撮影、SPSS、水温計測<br>・オニヒトデ駆除の実施<br>・市民参加型モニタリングイベントの実施<br>・地元小学校での環境学習<br>③<br>徳島県によるサンゴの移植、移植サンゴのモニタリング調査、海陽町によるエダミドリイシの採卵・育成実験、NPOによるリーフチェック等が行われている。<br>年に1度協議会を開催し、調査・実験結果の報告等の情報共有が行われている。 | ①サンゴ関係者が多く集まる協議会において、大規模白化に関する情報共有を行ったことで、問題点の共有が行われた。<br>②<br>・湾内全体のサンゴの生息状況が把握できた（湾奥では被度の増加が、湾口の一部ではオニヒトデ食害による消失が確認された）<br>・オニヒトデ駆除事業により、湾奥を中心に、サンゴが保全できている。<br>③エダミドリイシの育成環境の確認 | 環境省<br>（計画課再生L） | ①石西礁湖自然再生協議会委員<br>②竜串観光振興会、土佐清水市、高知県、四国森林管理局ほか<br>③徳島県、海陽町、NPO | ①H28<br>②H28-R2年度<br>③H28-30年度 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②竜串自然再生プロジェクト<br>平成28年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務）<br>③徳島県HPでの活動紹介<br>https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shizen/5008142 | - |
| | | | | | H29 | ①<br>石西礁湖自然再生協議会の各委員により、過去10年間における取組内容について評価検証を行うための「分科会」を開催したうえで、同協議会において平成30年度以降における再生事業の進め方を確認した。<br>②<br>・協議会への参画（3回）：多様な主体による流域での取組との情報共有、「地域の体制づくり」に向けた検討、関連する取組をまとめた基礎資料集の作成<br>・サンゴの生息状況モニタリング、定点写真撮影、SPSS、水温計測<br>・サンゴの生息種リストの作成<br>・既往調査で確認された生物種リストの作成<br>・オニヒトデ駆除の実施<br>・市民参加型モニタリングイベントの実施<br>・地元小学校での環境学習<br>③<br>徳島県によるサンゴの移植、移植サンゴのモニタリング調査、海陽町によるエダミドリイシの採卵・育成実験、NPOによるリーフチェック等が行われている。<br>年に1度協議会を開催し、調査・実験結果の報告等の情報共有が行われている。 | ①短期目標期間10年間の各委員の取組を共有することで、長期目標達成に向けた、協議会の目標達成点と課題点を共有することができた。<br>②・これまでの調査結果のとりまとめを行い、湾内のサンゴ、砂中生物、魚類等の生物種リストが作成できた。<br>・オニヒトデ駆除事業により、湾奥を中心に、サンゴが保全できている。<br>③エダミドリイシの育成環境の確認 | | | ①H29<br>②H28-R2年度<br>③H28-30年度 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②竜串自然再生プロジェクト<br>平成29年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務）<br>平成29年度竜串地区自然再生事業推進のための情報基盤構築業務報告書<br>③徳島県HPでの活動紹介<br>https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shizen/5008142 | - |
| | | | | | H30 | ①<br>石西礁湖自然再生協議会において、過去の各取組に関する評価検証結果を踏まえ、今後、重点的、かつ、積極的に実施すべき取組について共有するための「行動計画」を策定するための検討を行った。<br>②<br>・協議会への参画（1回）：多様な主体による流域での取組との情報共有<br>・サンゴの生息状況モニタリング、定点写真撮影、SPSS、水温計測<br>・ウミウシの生息種リストの作成<br>・オニヒトデ駆除の実施<br>・市民参加型モニタリングイベントの実施<br>・地元小学校での環境学習<br>・拠点施設としての竜串ビジターセンター（仮称）の整備<br>③<br>徳島県によるサンゴの移植、移植サンゴのモニタリング調査、海陽町によるエダミドリイシの採卵・育成実験、NPOによるリーフチェック等が行われている。<br>年に1度協議会を開催し、調査・実験結果の報告等の情報共有が行われている。 | ①次年度に向け「行動計画」策定の目途を付けることができた。<br>②関係事業と連携して、計3,842個体のオニヒトデの駆除を行った。<br>③<br>・サンゴ幼体の着生率が大幅に上昇し、過去最高となる種苗数を作成。<br>・初めて、採卵・育成実験により作成した有性生殖種苗を、小学生が移植した。 | | | ①H30<br>②H28-R2年度<br>③H28-30年度 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②竜串自然再生プロジェクト<br>平成30年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務）<br>③徳島県HPでの活動紹介<br>https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kurashi/shizen/5008142 | - |
| | | | | | R1 | ①<br>石西礁湖自然再生全体構想の短期目標（10年）に関する評価・検証結果を踏まえ、長期目標（30年）の実現に向け、より積極的かつ重点的に取り組む事項を「石西礁湖自然再生全体構想　行動計画2019-2023」(2019年6月）としてとりまとめた。<br>②<br>・サンゴの生息状況モニタリング、定点写真撮影、SPSS、水温計測<br>・オニヒトデ駆除の実施<br>・次世代の担い手育成のためのイベントの実施<br>・普及啓発グッズの作成（ウミウシ下敷きの増刷、クリアファイルの作成）<br>・地元小学校での環境学習<br>・拠点施設としての竜串ビジターセンターの整備（R2.3にオープン）<br>③<br>徳島県によるサンゴの移植、移植サンゴのモニタリング調査、海陽町によるエダミドリイシの採卵・育成実験、NPOによるリーフチェック等が行われている。<br>年に1度協議会を開催し、調査・実験結果の報告等の情報共有が行われている。 | ①同行動計画をもとに、協議会の各主体がより連携を図りながら取組を継続することが可能となった。<br>②関係事業と連携して、計2,855個体のオニヒトデの駆除を行った。<br>③<br>・エダミドリイシの育成環境の確認<br>・採卵・育成実験により作成した有性生殖種苗を、小学生が移植 | | | ①R1<br>②R1<br>③R1 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②土佐清水ジオパーク構想ホームページ<br>https://tosashimizu-geo.jp/learn/#database<br>③海陽町観光協会HPでの活動紹介など<br>https://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/aquarium2/conservation-activities2 | - |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | R2 | ①<br>「石西礁湖自然再生全体構想　行動計画2019-2023」(2019年6月）に基づき、サンゴ群集修復事業を開始した。初年度の本年は検討会の立ち上げ及び今後5年間の計画策定を行った。<br>②<br>・協議会への参画（年度途中のため回数未定）<br>・サンゴの生息状況モニタリング、定点写真撮影、SPSS、水温計測<br>・オニヒトデ駆除の実施<br>・次世代の担い手育成のためのイベントの実施<br>・普及啓発グッズの作成（シール、竜串地域カルタ、スタンプセット）<br>・地元小学校での環境学習<br>・拠点施設としての竜串ビジターセンターの活用<br>③<br>徳島県によるサンゴの移植、移植サンゴのモニタリング調査、海陽町によるエダミドリイシの採卵・育成実験、NPOによるリーフチェック等が行われている。<br>年に1度協議会を開催し、調査・実験結果の報告等の情報共有が行われている。<br>定点観測によるサンゴ分布調査。 | ①<br>※まだ年度途中のため、不明<br>②<br>※まだ年度途中のため、不明<br>③<br>※まだ年度途中のため、不明 | | | ①R2-R6<br>②R2<br>③R2 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②土佐清水ジオパーク構想ホームページ<br>https://tosashimizu-geo.jp/learn/#database<br>③海陽町観光協会HPでの活動紹介など<br>https://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/aquarium2/conservation-activities2 | - |
| | | | | | R3 | ①<br>R2年度に策定した計画を踏まえ、サンゴ群集修復事業の実証試験を開始する予定。試験的に幼生採取装置により採卵し、サンゴを着床させた着床具を架台に乗せ海域に設置する。<br>②<br>同上<br>③<br>同上 | ①サンゴ群集修復試験及びモニタリングを実施<br>②モニタリングによる生育状況等の把握、オニヒトデ駆除、環境教育等による普及啓発<br>③エダミドリイシの育成環境の確認、採卵・育成実験により作成した有性生殖種苗を小学生が移植 | | | ①R2-R6<br>②R3<br>③R3 | ①石西礁湖自然再生ホームページ<br>http://www.sekiseisyouko.com/szn/<br>②土佐清水ジオパーク構想ホームページ<br>https://tosashimizu-geo.jp/learn/#database<br>③海陽町観光協会HPでの活動紹介など<br>https://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/aquarium2/conservation-activities2 | - |
| | | - | 石西礁湖自然再生協議会の開催 | 1.5.2 | H28 | 記入なし | | 環境省沖縄奄美自然環境事務所 | | | | |
| | | | | | H29 | 石西礁湖自然再生全体構想の短期目標（10年）の達成年にあたり、構成員に10年間の取組の自己評価を依頼し、平成30年1月24日・25日に取組内容や今後に向けた課題について意見交換を行ったところ。意見交換の結果を踏まえ、10年間の評価・検証を平成30年2月18日の自然再生協議会でとりまとめる予定。10年間の評価・検証結果を受けて、次年度にかけて今後の取組の方針等を引き続き議論をしていく。 | （記載なし） | | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | h |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 石西礁湖自然再生全体構想の短期目標（10年）についての評価・検証結果を踏まえ、長期目標（30年）の実現に向け、より積極的かつ重点的に取り組む事項を「行動計画」として取りまとめるため、平成30年7月、10月に開催した自然再生協議会で内容を協議し、令和元年6月に開催した同協議会で「石西礁湖自然再生全体構想　行動計画2019-2023」を決定した。 | 今後、協議会の各主体が同行動計画をもとに、取組を継続する。 | | | | | |
| | | | | | R2 | 石西礁湖自然再生協議会、学術部会、陸域・海域部会を開催（予定）。今年から学術部会の下に、「作業チーム」を設置し、学術的な観点でデータ解析方法、評価、必要な対策の検討を開始した。 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 石西礁湖自然再生協議会、学術部会、学術部会作業チーム、陸域・海域部会、普及啓発・適正利用部会を開催し、学術的な観点でのデータ解析方法や評価、必要な対策の検討を実施した。 | | | | | | |
| | 1.6 | ◆沖縄県赤土等流出防止対策基本計画<br>平成25 年9月に策定した「沖縄県赤土等流出防止対策基本計画」において、平成33 年度までに対象流域の赤土等流出量を平成23年度比で55%削減することとしている。その達成に向けた総合的取組を推進する。 | 基本計画において県内の76海域及びその流域に環境保全目標及び流出削減目標量を設定 | 1.6.1 | H28 | 環境保全目標を達成するため、流出源毎に各種対策を実施<br>農地、開発事業、米軍基地等からの流出防止対策について取組む | （記載なし） | 沖縄県 | （記載なし） | H25～現在(H30) | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | 同上 | | H25～現在（R1） | 沖縄県環境保全課HPにて公開<br>http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/hozen/mizu_tsuchi/redclay/index.html | |
| | | | | | R2 | 同上 | | 同上 | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | 同上 | | H25～R3 | | |

| No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.7 | ◆赤土等流出防止活動支援事業<br>沖縄県赤土等流出防止対策基本計画に定めた目標達成に向け、赤土等流出防止活動を行う団体に対して、活動のための費用を助成するとともに、赤土等の流出防止対策を実施している地域において、地域住民を対象とした環境教育等の取組を実施する。 | ①赤土等流出防止活動団体への補助金の交付<br>②環境教育の実施<br>③啓発イベントの開催 | 1.7.1 | H28 | ①平成28年度4団体支援（啓発活動17件、流出源対策13件）<br>②環境教育11回（参加人数404人）<br>③イベントの開催3回（来場者数1,965人） | 同左 | 沖縄県 | （記載なし） | H25～ | （記載なし） | 内閣府沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | H29 | ①平成29年度6団体支援（啓発活動32件、流出源対策22件）<br>②環境教育11回（参加人数319人）<br>③イベントの開催2回（来場者数1,141人） | 同左 | | | | （記載なし） | |
| | | | | H30 | ①平成30年度4団体支援（啓発活動7件、流出源対策20件）<br>②環境教育の実施11回（参加人数302名）<br>③イベントの開催2回（来場者数1,167名） | 同左 | | | | （記載なし） | |
| | | | | R1 | ①令和元年度3団体支援（啓発活動7件、流出源対策9件）<br>②環境教育の実施11回（参加人数259名）<br>③イベントの開催2回（来場者数651名） | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | ①3団体交付予定<br>②環境教育の実施11回<br>③新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント実施せず | | 同上 | | | | |
| | | | | R3 | ①4団体交付予定<br>②環境教育の実施11回 | ①4団体支援（普及啓発4、流出源調査10件）<br>②環境教育の実施11回（参加人数：316名） | 同上 | | H25～R3 | | 内閣府沖縄振興特別推進交付金 |
| 1.8 | ◆赤土等流出防止海域モニタリング事業<br>沖縄県赤土等流出防止対策基本計画で策定された環境保全目標達成のために実施された対策の効果が海域における赤土等堆積量の減少として表れているか検証を行うために、堆積状況を経年的に把握し、赤土等堆積状況の監視を行い、情報を収集する。 | 海域における赤土等堆積状況の情報収集 | 1.8.1 | H28 | ・赤土等の堆積状況調査（SPSS、濁度、塩分、T-N、T-P）／サンゴ類調査の実施（28海域、120地点）<br>・平成27年度調査結果：人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は28海域中14海域 | 人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は<br>28海域中12海域(H28)<br>28海域中15海域(H29)<br>28海域中20海域（H30）<br>R1年度も、監視対象28海域を対象として取組実施中。 | 沖縄県 | （記載なし） | H24～ | http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/hozen/mizu_tsuchi/redclay/index.html | 内閣府沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | H29 | ・赤土等の堆積状況調査（SPSS、濁度、塩分、T-N、T-P）／サンゴ類調査の実施（28海域、120地点）<br>・平成28年度調査結果：人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は28海域中12海域 | | | | | | |
| | | | | H30 | ・赤土等の堆積状況調査（SPSS、濁度、塩分、T-N、T-P）／サンゴ類調査の実施（28海域、120地点）<br>・平成29年度調査結果：人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は28海域中15海域 | | | | | | |
| | | | | R1 | ・赤土等の堆積状況調査（SPSS、濁度、塩分、T-N、T-P）／サンゴ類調査の実施（28海域、120地点）<br>・平成30年度調査結果：人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は28海域中20海域 | | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | 同上 | | 同上 | | | | |
| | | | | R3 | ・赤土等の堆積状況調査（SPSS、濁度、塩分、T-N、T-P）／サンゴ類調査の実施（28海域、120地点） | 人為的な赤土等の流出による汚染がないと判断される赤土堆積ランク5以下は28海域中13海域（R3） | 同上 | | | 環境保全課HP | 内閣府沖縄振興特別推進交付金 |
| 開発事業からの流出対策 | | | | | | | | | | | |
| | | 奄美地域赤土等流出防止対策協議会の開催 | 1.9.1 | H28 | 協議会の運営 | 協議会総会年1回開催（開催団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた。） | 鹿児島県他協議会構成団体（報告元：鹿児島県） | なし | H12年度～現在 | なし | 観光資源保全のための赤土等流出防止啓発事業 |
| | | | | H29 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録推進に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |
| | | | | H30 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | R2 | 同上（書面会議開催） | | | | | | |
| | | | | R3 | 同上(書面会議開催) | 協議会総会年1回開催（開催団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた。） | 鹿児島県他協議会構成団体（報告元：鹿児島県） | なし | H12年度～現在 | なし | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1.9 | ◆開発現場からの赤土等流出防止対策<br>「赤土等流出防止対策の進め方」（大島支庁赤土等流出防止対策方針及び実施要領）に沿って、開発現場における仮沈砂池（土嚢）、汚濁防止フェンス、竹柵工等の事業者による赤土等流出防止対策を促進する。 | 赤土等流失防止に関する普及啓発 | 1.9.2 | H28 | ・文書依頼（建設業，砕石採石業者，開発業者等）<br>・広報啓発（新聞，地元ラジオ局への広告依頼，啓発グッズ作成等） | 関係団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた。 | 協議会<br>（報告元：鹿児島県） | なし | H12年度～現在 | なし | 観光資源保全のための赤土等流出防止啓発事業 |
| | | | | | H29 | ・文書依頼（建設業，砕石採石業者，開発業者等）<br>・広報啓発（新聞，地元ラジオ局への広告依頼，啓発グッズ作成等）<br>・リーフレットを作成し配布（建設業者，砕石採石業者，開発業者等） | | | | | | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録推進に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |
| | | | | | H30 | ・文書依頼（建設業，砕石採石業者，開発業者等）<br>・広報啓発（新聞，地元ラジオ局への広告依頼，啓発グッズ作成等） | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | ・文書依頼（建設業，砕石採石業者，開発業者等）<br>・広報啓発（新聞，地元ラジオ局への広告依頼） | 赤土等流出防止対策に係る地域住民への意識啓発が図られた。 | 協議会<br>（報告元：鹿児島県） | なし | H12年度～現在 | なし | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |
| | | | 優良事例研修・検討会の実施 | 1.9.3 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 協議会構成団体合同による管内の優良事例地区を視察及び検討会を実施 | H29-H30年度：実地研修・検討会を年1回実施<br>（関係団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた） | 鹿児島県他協議会構成団体 | なし | H29年度～現在 | なし | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録推進に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | | | 赤土等流出防止対策学習会の実施 | 1.9.4 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 専門的な知識を有する講師を招き，赤土等流出防止対策に係る講演による学習会を実施 | H29-H30年度：学習会を年1回実施（H29奄美大島，H30徳之島）<br>（関係団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた） | 鹿児島県他協議会構成団体 | なし | H29年度～現在 | なし | 県単独（奄美群島の世界自然遺産登録推進に係る赤土等流出防止対策啓発事業） |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | R1年度：沖永良部で実施 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | | | 合同パトロールの実施 | 1.9.5 | H28 | 協議会構成団体合同による管内のパトロールの実施 | 合同パトロール1回実施（関係団体における赤土等流出防止の機運の醸成が図られた） | 鹿児島県他協議会構成団体 | なし | H12年度～H28年度 | なし | 観光資源保全のための赤土等流出防止啓発事業 |
| | | | | | H29 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 取り組みなし | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1.10 | ◆開発事業からの赤土等流出防止対策<br>沖縄県赤土等流出防止条例に基づく開発行為に対する届出等の確認及び事業現場等の監視パトロール・指導を行い、開発現場からの赤土等流出防止対策を推進する。また、開発事業者等への赤土等流出対策の普及啓発を実施する。 | 開発行為に対する届出等の確認及び事業現場等の監視パトロール・指導の実施。<br>赤土等流出防止条例に基づく、開発事業における赤土等流出防止対策の徹底 | 1.10.1 | H28 | 【平成27年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1034件、監視現場数：455箇所、監視回数：579回、指導件数：174件、赤土等流出防止講習会の開催(3回、170名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、100名参加)。 | ■届出・通知件数<br>1045件(H28) 1010件(H29)<br>1055件(H30)<br>■のべ監視回数<br>628回(H28) 751回(H29)<br>601回(H30)<br>■指導件数<br>187回(H28) 263件(H29)<br>283回(H30)<br>※R1年度は現在実施中 | 沖縄県 | (記載なし) | H7～ | (記載なし) | (記載なし) |
| | | | | | H29 | 【平成28年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1045件、監視現場数：471箇所、監視回数：628回、指導件数：187件、赤土等流出防止講習会の開催(3回、119名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、135名参加)。 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 【平成29年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1010件、監視現場数：624箇所、監視回数：751回、指導件数：263件、赤土等流出防止講習会の開催(3回、183名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、122名参加)。 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 【平成30年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1055件、監視現場数：466箇所、監視回数：601回、指導件数：283件、赤土等流出防止講習会の開催(3回、121名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、76名参加)。 | | 同上 | | 同上 | | |
| | | | | | R2 | 【令和元年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1055件、監視現場数：466箇所、監視回数：601回、指導件数：283件、赤土等流出防止講習会の開催(1回、95名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、100名参加)。 | | 同上 | | 同上 | | |
| | | | | | R3 | 【令和2年度実績】<br>条例に基づく届出等件数：1307件、監視現場数：254箇所、監視回数：394回、指導件数：170件、赤土等流出防止講習会の開催(1回、40名参加)、赤土等流出防止交流集会の開催(1回、58名参加)。 | | 同上 | | 同上 | | |
| 農地からの流出対策 | | | | | | | | | | | | |
| | 1.11 | ◆水質保全対策事業<br>水資源の総合的な保全に資することを目的とし、農業用用排水施設から公共用水域へ排出される排水の水質浄化を図り、農村地域の環境保全及び農業利水に適切に対処するとともに、農地（休耕田）や水生生物が有する自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を実施する。 | 水質保全整備事業 | 1.11.1 | H28 | 海域の環境保全のために、農業用用排水施設内の水質浄化を図る必要がある際には、自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を図る<br>※H28-30年度の間は実施地区なし | ― | 農林水産省 | 県・地方公共団体が事業の実施主体 | 実施地区なし | ― | - |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上<br>※R1年度は実施地区なし | ― | | 同上 | 同上 | ― | ― |
| | | | | | R2 | 同上<br>※R2年度は実施地区なし | ― | | 同上 | 同上 | ― | ― |
| | | | | | R3 | 同上<br>※R3年度は実績地区なし | ― | | 同上 | 同上 | ― | ― |
| | 1.12 | ◆耕土流出防止施設整備<br>侵食を受けやすい土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止し、農村地域の環境保全に資することを目的として、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護、土層改良、暗渠排水、既存施設の軽微な変更等を実施する。 | 耕土流失防止施設の整備 | 1.12.1 | H28 | 農用地及びその周辺の土壌の流出を防止するため、農地等の発生源対策として承水路、沈砂池等の整備や、勾配抑制、グリーンベルト等の植生保護を実施。<br>平成28年度は沖縄県で20地区、鹿児島県で3地区で実施。<br>平成29年度は沖縄県で19地区、鹿児島県で3地区実施。<br>平成30年度は沖縄県で17地区、鹿児島県で2地区実施。<br>今後とも、農用地及びその周辺の土壌の流出低減に向け、関係自治体や営農者と連携して営農での取組とともに本事業を推進していく。 | 2016～2017年度に沖縄県で5地区の整備が完了 | 農林水産省 | 県・地方公共団体が事業の実施主体 | H5年度～現在<br>（H30 年度） | ― | - |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 令和元年度は沖縄県で14地区、鹿児島県で2地区で実施 | 2016～2018年度に沖縄県で9地区、鹿児島県で1地区の整備が完了 | | 同上 | H5年度～現在<br>（R1年度） | ― | ― |
| | | | | | R2 | 令和2年度は沖縄県で12地区、鹿児島県で1地区で実施 | 2016～2019年度に沖縄県で13地区、鹿児島県で2地区の整備が完了 | | 同上 | H5年度～現在<br>（R2年度） | ― | ― |
| | | | | | R3 | 令和3年度は沖縄県で10地区、鹿児島県で1地区で実施 | 2016～2020年度に沖縄県で14地区、鹿児島県で2地区の整備が完了 | | 同上 | H5年度～現在<br>（R3年度） | ― | ― |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1.13 | ◆耕土流出防止施設整備<br>侵食を受けやすい土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止し、農村地域の環境保全に資することを目的として、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護、土層改良、暗渠排水、既存施設の軽微な変更等を実施する。 | 公共事業施工における赤土等流出防止対策の指導・監督 | 1.13.1 | H28 | 「赤土等流出防止対策方針」により，計画，設計，施工及び管理の為，現段階において対策を講じるとともにあらゆる機会を通じて施工業者への指導・監督を強化(H28,29)<br>県や市町村が行う公共事業施工時に赤土等流出防止対策の指導・監督(H30) | 管内一円の公共工事で対応し耕土流出防止が図られた。 | 鹿児島県 | なし | H12年度～現在 | なし | 国庫補助事業，県単独事業 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 「赤土等流出防止対策方針」により，計画，設計，施工及び管理の各段階において対策を講じるとともに，県や市町村が行う公共事業施工時に赤土等流出防止対策の指導・監督を実施 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 国庫補助事業 |
| | 1.14 | ◆耕土流出防止施設整備<br>侵食を受けやすい土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止し、農村地域の環境保全に資することを目的として、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護、土層改良、暗渠排水、既存施設の軽微な変更等を実施する。 | 水質保全対策事業（耕土流出防止型）の実施 | 1.14.1 | H28 | 離島を含む沖縄県全域17地区において流出防止対策及び発生源対策を行う。 | 17地区 | 沖縄県 | － | H28年度～H30年度 | （記載なし） | 沖縄振興公共投資交付金（ハード交付金） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 離島を含む沖縄県全域14地区において流出防止対策及び発生源対策を行う。 | 14地区 | 沖縄県・市町村 | 同上 | H23年度～R3年度 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 離島を含む沖縄県全域12地区において流出防止対策及び発生源対策を行う。 | 12地区 | 同上 | 同上 | H23年度～R9年度 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 離島を含む沖縄県全域12地区において流出防止対策及び発生源対策を行う。 | 12地区 | 同上 | | H22年度～R10年度 | 同上 | 同上 |
| | 1.15 | ◆多面的機能支払交付金（うち資源向上支払）<br>地域住民を含む組織が取り組む水路、農道等の軽微な補修や植栽による景観形成など農村環境の良好な保全を始めとする地域資源の質的向上を図る共同活動、施設の長寿命化のための活動を支援する。このうち耕土流出対策としては、グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組等を支援する。 | 多面的機能支払交付金（資源向上支払）の運営 | 1.15.1 | H28 | 耕土流出防止対策（グリーンベルトの設置や沈砂池の適正管理等の取組）<br>H27年度：鹿児島県の4町40組織及び沖縄県の18市町村28組織において実施。<br>H28年度：鹿児島県の4町31組織及び沖縄県の18市町村28組織において実施<br>H29年度：鹿児島県の4町16組織及び沖縄県の16市町村26組織において実施<br>今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に資することとする。 | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/pdf/29_jisseki_mikomi.pdf | 農林水産省 | 交付先 | H26年度～現在（H30 年度） | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | H30年度：鹿児島県の3町13組織及び沖縄県の18市町村28組織において実施<br>今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に資することとする。 | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/h30jissi.html | | 交付先 | H26年度～現在（R1年度） | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html | － |
| | | | | | R2 | R1年度：鹿児島県の5町15組織及び沖縄県の9市町村19組織において実施<br>今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に資することとする。 | https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/r1jissi.html | 農林水産省 | 交付先 | 同上 | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html | － |
| | | | | | R3 | R2年度：鹿児島県の5市町15組織及び沖縄県の10市町村18組織において実施<br>今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に資することとする。 | https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/R2jissi_joukyou.html | 農林水産省 | 交付先 | R2 | http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html | － |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1.16 | ◆多面的機能支払交付金（うち資源向上支払）<br>地域住民を含む組織が取り組む水路、農道等の軽微な補修や植栽による景観形成など農村環境の良好な保全を始めとする地域資源の質的向上を図る共同活動、施設の長寿命化のための活動を支援<br>する。このうち耕土流出対策としては、グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組等を支援する。 | 地域共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動を支援 | 1.16.1 | H28 | ①水質モニタリングの実施・記録管理<br>②畑からの土砂流出対策<br>・排水路沿いの林地帯等の適正管理<br>・沈砂池、浸透池の適正管理<br>・土砂流出防止のためのグリーンベルト等の適正管理<br>③その他水質保全対策に関すること | 農道・排水路の補修や泥上げ、グリーンベルトの設置等を行った。<br>【事業実施実績】<br>H28年度：25市町村44組織<br>H29年度：26市町村47組織<br>H30年度：26市町村47組織 | 活動組織 | ― | H26年度～H30年度 | 農林水産省HPにて公開<br>http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html | 諸土地改良事業費補助 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 農道・排水路の補修や泥上げ、グリー<br>ンベルトの設置等を行う。<br>【事業実施実績】<br>26市町村48組織 | 同上 | ― | H31～R5 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | ― | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | ― | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 1.17 | ◆赤土等流出防止営農対策促進事業(H29～R3)<br>旧：沖縄の自然環境保全に配慮した農業活性化支援事業(H24～28)<br>地域における自主的かつ継続的な赤土等流出防止対策の推進を目的とし、赤土等流出防止対策を普及・啓発する農業環境コーディネーターの育成や支援組織の構築、対策に伴う資金や労働力を確保するための手法の確立に関する取組を実施する。 | 対策を支援する企業・サポーター等と地域協議会を繋ぐ農業環境コーディネーターを育成し、支援組織の構築及び対策に伴う資金や労働力を確保するための手法を確立し、自立的で持続的な支援体制の運用を目指す。 | 1.17.1 | H28 | ①地域協議会の活動支援<br>②コーディネーター業務お代ボイ組織運営マニュアルの精度向上<br>③赤土等流出防止営農対策に係る試験研究 | 沖縄県赤土等流出防止対策基本計画で示された重点監視海域および監視海域を有し、赤土等流出防止対策地域協議会を有する8市町村に支援 | 沖縄県 | ― | H24年度～R1年度 | ― | 沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | 対策を支援する企業・サポーター等と地域協議会を繋ぐ農業環境コーディネーターの活動支援や、地域協議会の対策資金や労働力を確保するための手法の確立 | | H29 | ①地域協議会の活動支援<br>・農業環境コーディネーターの活動支援<br>・グリーンベルト増殖・植付体制の構築<br>・サトウキビ畑における複合対策の実施<br>②赤土等流出防止活動資金の確保に係る制度設計<br>③赤土等流出防止営農対策に係る試験研究 | 沖縄県赤土等流出防止対策基本計画で示された重点監視海域および監視海域を有し、赤土等流出防止対策地域協議会を有する10市町村に支援 | | | | | |
| | | | 同上 | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | 同上 | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | 同上 | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | H29～R3 | 同上 | 同上 |
| | | | 同上 | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | H29～R3 | 同上 | 同上 |
| | 1.18 | － | 沖縄県における、赤土などの流出を防止するための整備の推進 | 1.18.1 | H28 | 沖縄県：完了地区を含め９１地区で実施（平成２９年度末時点、） | － | 農林水産省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 沖縄県では平成30年度末時点において、完了地区を含め91地区で実施 | ― | | － | － | － | － |
| | | | | | R2 | 沖縄県では令和元年度末時点において、完了地区を含め92地区で実施 | ― | | － | － | － | － |
| | | | | | R3 | 沖縄県では令和2年度末時点において、完了地区を含め94地区で実施 | ― | | － | － | － | － |
| | 1.19 | － | 奄美群島における、赤土などの流出を防止するための整備の推進 | 1.19.1 | H28 | 奄美諸島においては平成２９年度末時点において、完了地区を含め１１地区で実施 | － | 農林水産省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 奄美諸島においては平成30年度末時点において、完了地区を含め11地区で実施 | ― | | － | － | － | － |
| | | | | | R2 | 奄美諸島においては令和元年度末時点において、完了地区を含め11地区で実施 | ― | | － | － | － | － |
| | | | | | R3 | 奄美諸島においては令和2年度末時点において、完了地区を含め11地区で実施 | ― | | － | － | － | － |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他 | | | | | | | | | | | | |
| | 1.20 | ◆小笠原国立公園聟島列島・父島列島植生回復事業<br>小笠原諸島振興開発事業補助金を活用し、ノヤギの食害により裸地化した箇所から海域に流出する赤土を抑えるため、ノヤギを完全排除した媒島で土壌侵食防止対策を実施する。また、ノヤギがまだ唯一生息している父島※でノヤギの排除を進め、植生回復の取組を実施する。 | 小笠原国立公園聟島列島・父島列島植生回復事業 | 1.20.1 | H28 | ＜媒島＞赤土の流出防止のために、谷部への堰堤設置や植生回復（播種試験や表面被覆工など）を実施中<br><br>＜父島＞植生を破壊するノヤギの根絶に向けた駆除作業を実施中 | 従前に比べ、媒島袋港への赤土流出は減少しつつある | 東京都小笠原支庁 | － | ＜媒島＞平成9年度～<br>＜父島＞平成23年度～ | http://ogasawara-info.jp/pdf/isan/kanrikeikaku_nihongo1803.pdf | 小笠原諸島振興開発事業補助金 |
| | | | | | H29 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | H30 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 1.21 | － | 竜串の自然再生につながる活動:手入れした山で学ぶワークショップの開催 | 1.21.1 | H28 | 三脚いすづくり | 30人 | サンゴと森の救援隊（報告元：高知県） | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | 高知山の日推進事業 |
| | | | | | H29 | ドラム缶炭窯づくり | 22人 | | （記載なし） | 平成22年～ | （記載なし） | |
| | | | | | H30 | 間伐材で積み木づくり | 16人 | | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | |
| | | | | | R1 | 海域公園で利用できるベンチとテーブルづくり（1月） | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | | | 竜串の自然再生につながる活動:森林整備・間伐 | 1.21.2 | H28 | 竜串地域上流域で災害に強い森づくりを進めるため、林野庁四万十森林管理署、高知県森づくり推進課、土佐清水市農林水産課それぞれで活動を行う | 延べ1041ha(H28)/1136ha(H29)の森林施業が完了 | 林野庁四万十森林管理署、高知県森づくり推進課、土佐清水市農林水産課（報告元：高知県） | 左記連携主体 | 平成14年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | 各実施主体の事業予算 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | 左記連携主体 | 平成14年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | 各実施主体の事業予算 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | 左記連携主体 | 平成14年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | 各実施主体の事業予算 |
| | | | | | R3 | 同上 | | | 左記連携主体 | 平成14年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | 各実施主体の事業予算 |
| | | | 竜串の自然再生につながる活動:土砂浚渫 | 1.21.3 | H28 | 河川からの土砂流出防止のための土砂の浚渫工事の実施 | 延べ57000m3の土砂(H28・29)の浚渫が完了した。H30実績:4520m3の土砂を浚渫（三崎川、西の川） | 高知県幡多土木事務所(報告元：高知県） | （記載なし） | 平成19年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | 各実施主体の事業予算 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | 各実施主体の事業予算 |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | （記載なし） | 平成19年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組 | | | | | | | | | | | | |
| 栄養塩類流出防止に向けた取組 | | | | | | | | | | | | |
| 事業排水規制による対策 | | | | | | | | | | | | |
| | 1.22 | ◆水質環境保全の啓発推進<br>環境基準の達成が困難な都市部や住宅密集地に隣接した水域について、必要に応じて生活排水対策重点地域を指定し、対象水域の流域市町村に生活排水対策の実践を促すことで公共用水域の保全を図る。 | | 1.22.1 | | 別シート(排水関係)参照 | | 各都道府県 | | | | |
| | 1.23 | ◆水質関係事業所等監視指導<br>水質汚濁防止法に基づく特定事業場への立入を行い、事業場から公共用水域へ排出される排水が基準に適合するよう指導を行い、公共用水域において環境基準を達成できるよう努める。 | | 1.23.1 | | 別シート(排水関係)参照 | | 各都道府県 | | | | |
| | 1.24 | ◆窒素及びリンの排水規制<br>閉鎖性が高く富栄養化の恐れのある海域として、おもなサンゴ礁域である琉球諸島の金武湾や奄美群島の焼内湾等の海域を含む全国で88 か所の閉鎖性海域を対象に、全窒素、全りんの排水規制を実施する。 | 水質汚濁防止法の運用 | 1.24.1 | H28 | 閉鎖性が高く富栄養化の恐れのある海域として、おもなサンゴ礁域である琉球諸島の金武湾や奄美群島の焼内湾等の海域を含む全国で88 か所の閉鎖性海域を対象に、全窒素、全りんの排水規制を水質汚濁防止法に基づき実施した。 | 海域中の窒素、りんの量が削減された。 | 環境省（水大気局・閉海室） | (記載なし) | H5年～ | (記載なし) | – |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 1.25 | ◆閉鎖性海域における暫定排水基準の見直しの検討<br>全国の閉鎖性海域において、直ちに一般排水基準を達成することが困難であった畜産農業等の特定の業種を対象に、5年期限の暫定排水基準が設定されている。現在、窒素について5業種、リンについて1業種の事業場に対して暫定排水基準が設定されている。今後、平成30年に期限を迎える暫定排水基準の見直しを検討する。 | （改善対策の取組の推進） | 1.25.1 | H28 | （平成27年度に実施した畜産農業に係る窒素・りん暫定排水基準適用事業場に対する調査結果を踏まえ、農林水産省と連携し、都道府県環境担当部局、都道府県畜産担当部局に対し、通知を発出し、改善対策の取組の推進を図った。） | – | 環境省（水大気局・閉海室） | (記載なし) | H28年度 | (記載なし) | – |
| | | | 窒素・りん暫定排水基準適用事業場調査等の実施 | | H29 | 窒素・りんの暫定排水基準が適用されている事業場の実態調査を実施。<br>実態調査の結果を踏まえ、各業種の一般排水基準達成に向けた取組等について技術的助言を得るとともに、基準値の見直しに向けた具体的な検討を行うことを目的として「海域の窒素・りん暫定排水基準に係る技術検討会」を設置し、4回にわたり検討を実施。 | 新たな暫定基準値案の作成 | | (記載なし) | H29年度～H30年度 | (記載なし) | – |
| | | | 暫定基準値の見直し | | H30 | 排水規制等専門委員会において、暫定排水基準の見直し案の審議を行った後、パブリックコメント、水環境部会での審議を実施。その後、平成30年10月1日に省令改正を実施。 | 暫定排水基準の見直し | | (記載なし) | H29年度～H30年度 | (記載なし) | – |
| | | | 窒素・りん暫定排水基準適用事業場調査等の検討 | | R1 | 来年度以降実施予定の畜産農業に係る窒素・りん暫定排水基準適用事業場に対する実態調査について調査内容を検討。 | | | | | | |
| | | | 窒素・りん暫定排水基準提供事業場調査等の実施 | | R2 | 畜産農業に係る窒素・りん暫定排水基準適用事業場に対する実態調査を実施。<br>天然ガス鉱業に係る窒素暫定排水基準の見直しに向けた検討を行うことを目的として検討会設置し、検討を実施。 | （今年度実施中） | | | | | |
| | | | （暫定基準値の見直し） | | R3 | 天然ガス鉱業に係る窒素暫定排水基準を見直し | 暫定排水基準の見直し | | | | | |
| | 1.26 | ◆沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業<br>持続的な畜産振興及び強化された畜産排水に係る排水基準の目標を達成するため、現場普及型の排水処理技術の検討を行う。また、排水規制の強化に対応できる指導体制の構築を図るため、前身事業で作成したマニュアル等を活用して技術者の育成、運用管理技術の検討等を実施する。 | 排水規制強化に対応する総合的な排水処理対策システムの構築 | 1.26.1 | H28 | 環境規制強化に適切に対応できる指導体制の構築と沖縄型低コスト排水処理施設の検討・実証。 | (記載なし) | 沖縄県 | (記載なし) | H29～H31 | 平成30年度(作成予定)～28年度沖縄型畜産排水対策課題解決モデル事業 | 沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | R1年度で事業終了 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.27 | ◆未利用資源活用畜産オガコ生産モデル事業<br>沖縄県では、臭気や尿汚水を吸収し、汚水の排出を抑える等、畜産による環境負荷を低減する効果のある敷料としてオガコを用いた養豚を推進しているが、安定供給等の課題があります。このため、オガコの材料として期待できる剪定された枝等からなる木質系の未利用資源を活用した取組を実施する。 | 畜産向け剪定枝オガコ生産モデル作成に向けた調査、検討研究の実施 | 1.27.1 | H28 | 剪定枝オガコ原料供給・生産・利用・処理体制の確立に向けた調査 | （記載なし） | 沖縄県 | （記載なし） | H28年度～H30年度 | 平成30年度(作成予定)～28年度　未利用資源活用畜産オガコ生産モデル事業報告書 | 沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | H30年度で事業終了 | | | | | | |
| | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| R1Nes | － | その他新たな取り組みがあればご記入ください | | R1 | なし | なし | 愛媛県 | なし | なし | なし | なし |
| | | その他R2年度に新たな取り組みがあればご記入ください | | R2 | 特になし<br>土木・農林部局で砂防・治山事業等の土石流対策を各地で実施していりため、陸域に由来する赤土などの土砂流出が削減されていると予想される。 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | その他R3年度に新たな取り組みの予定があればご記入ください | | R3 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| R1Nes | － | 管路等施設の適切な維持管理 | | R1 | 集落排水事業、下水道事業、合併浄化槽事業などにより、水質保全を図っている | | 海陽町 | | | | 海陽町 |
| | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | R3 | | | | | | | |
| 生活排水等の処理 | | | | | | | | | | | |
| 1.28 | ◆農業集落排水事業<br>生活排水等による水産動植物の生育環境の悪化に対しては、集落排水施設などの整備を通じた陸上からの水質負荷低減に取り組む | 農業集落排水事業 | 1.28.1 | H28 | 農業集落排水施設の未整備地域の整備、老朽化施設の更新整備及び高度処理の導入の促進。<br>陸上からの水質負荷低減に向け、今後とも農業集落排水施設の普及、更新整備及び高度処理の導入について、関係自治体と連携して推進する。 | 全国約230箇所で整備(H28)<br>全国約200箇所で整備(H29)<br>全国約190箇所で整備（H30） | 農林水産省 | 県・地方公共団体が事業の実施主体 | S58年度～現在（H30年度） | http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/nn/n nouson/syuhai/ | － |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | 同上 | 全国約230箇所で整備（R1） | | 同上 | S58年度～現在（R1年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | 同上 | 全国約240箇所で整備（R2） | | 同上 | S58年度～現在（R2年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | R3 | 同上 | 全国約270箇所で整備（R3） | | 同上 | S58年度～現在（R3年度） | 同上 | 同上 |
| 1.29 | ◆汚水処理人口普及率の向上<br>市町村に対する補助等（下水道水洗化促進補助、下水道事業促進整備交付金、浄化槽設置整備事業）を実施し、下水道や浄化槽等の整備を促進する。 | 汚水処理人口普及率の向上 | 1.29.1 | H28 | 下水道水洗化促進補助、下水道事業促進整備交付金、浄化槽設置整備事業による市町村に対する補助等を実施し、下水道や浄化槽等の整備を促進 | （記載なし） | 和歌山県 | （記載なし） | 継続中 | － | （記載なし） |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | 同上 | | 和歌山県 | | | | |
| | | | | R2 | 同上 | | 同上 | | 同上 | | |
| | | | | R3 | 同上 | | 同上 | | 同上 | | |
| 1.30 | ◆沖縄汚水再生ちゅら水プラン<br>沖縄県と県内市町村が連携して処理区域、整備手法及び整備スケジュールの設定を行い、各種汚水処理施設の整備を計画的、効率的に進めるための指針として策定された沖縄汚水再生ちゅら水プランに基づき、快適な生活環境の維持・向上と公共用水域の水質保全を図る下水道や浄化槽、農業集落排水施設等の整備を推進します。 | 汚水処理（下水道、合併浄化槽、農業・漁業集落排水）施設の効率的な整備の推進 | 1.30.1 | H28 | 汚水処理施設整備関係部局と連携し、「沖縄汚水再生ちゅら水プラン2016」の見直しを検討 | 平成27年度汚水処理人口7,868名増<br>※集計の関係上、1年度ずつズレあり | 沖縄県 | 県内全市町村 | H10年度～現在 | 沖縄県下水道課HP<br>http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/doboku/gesui/ryuiki/tyuramizu2016.html | 沖縄振興公共投資交付金 |
| | | | | H29 | 「沖縄汚水再生ちゅら水プラン2016」の見直しをH28 8月に策定<br>WEBにて公開中 | 平成28年度汚水処理人口8,180名増<br>※集計の関係上、1年度ずつズレあり | | | | | |
| | | | | H30 | 汚水処理施設整備関係部局と連携し、整備状況の進捗管理を実施 | 平成29年度汚水処理人口普及率85.6% | | | | | |
| | | | | R1 | 同上 | 平成30年度汚水処理人口普及率86.1% | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | 同上 | 令和元年度汚水処理人口普及率86.4% | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R3 | 同上 | 令和2年度汚水処理人口普及率86.7% | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1.31 | ◆合流式下水道の改善<br>計画的・効率的な合流式下水道の改善対策の実施を推進します。 | 合流式下水道の改善 | 1.31.1 | H28 | 合流式下水道改善事業の完了目標が平成35年度の都市及び流域下水道（22都市、1流域）について、スクリーンや雨水貯留施設等の整備を支援 | 合流式下水道の改善率は<br>・73.7%、前年度から0.7ポイント上昇(H27年度末)<br>・76.2%、前年度から2.5ポイント上昇(H28年度末)<br>・78.9%、前年度から2.7ポイント上昇(H29年度末)<br>※集計の関係上、1年度ずつズレあり | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | － | http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000104.html<br>http://www.mlit.go.jp/common/001154305.pdf | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | H30年度末時点の合流式下水道の改善率は82.4%となり前年度から3.5ポイント上昇(現時点の最新データがH30年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | | 同上 | － |
| | | | | | R2 | 同上 | H31年度末時点の合流式下水道の改善率は89.6%となり前年度から7.2ポイント上昇(現時点の最新データがH31年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | － | http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000104.html | － |
| | | | | | R3 | 同上 | R2年度末時点の合流式下水道の改善率は89.9%となり前年度から0.3ポイント上昇(現時点の最新データがR2年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | － | 同上 | － |
| | 1.32 | ◆下水道によるし尿、生活排水対策など各種汚水処理を実施<br>人口減少等の社会情勢の変化を踏まえた効率的な汚水処理施設の整備を進めるため、地域の特性を考慮し下水道、農業集落排水施設、浄化槽等の適切な役割分担の下、必要な下水道整備を推進する。 | 下水道による汚水処理の実施（下水道によるし尿・生活排水対策など） | 1.32.1 | H2 | 効率的な下水道整備の推進（社会情勢の変化を踏まえた下水道計画の見直し・汚水処理施設の連携強化・低コスト技術の導入等） | H29年度末時点での下水道処理人口普及率は78.8%となり、前年度から0.5ポイント上昇<br>(現時点の最新データがH29年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | － | https://www.mlit.go.jp/common/001248920.pdf | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 効率的な下水道整備の推進（社会情勢の変化を踏まえた下水道計画の見直し・汚水処理施設の連携強化・低コスト技術の導入等） | H30年度末時点での下水道処理人口普及率は79.3%となり、前年度から0.5ポイント上昇<br>(現時点の最新データがH30年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | | https://www.mlit.go.jp/common/001303856.pdf | － |
| | | | | | R2 | 同上 | H31年度末時点での下水道処理人口普及率は79.7%となり、前年度から0.4ポイント上昇<br>(現時点の最新データがH31年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | | https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001361523.pdf<br>https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001361524.pdf<br>https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001361525.pdf | |
| | | | | | R3 | 同上 | R2年度末時点での下水道処理人口普及率は80.1%となり、前年度から0.4ポイント上昇<br>(現時点の最新データがR2年度のもの) | 国土交通省下水道部 | 都道府県・市町村 | － | https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001421075.pdf<br>https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001421076.pdf | － |

| | | | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1.33 | ◆浄化槽整備事業<br>・廃棄物処理施設整備計画（平成25年5月31日閣議決定）に基づき、平成29 年度までに、浄化槽処理人口普及率（浄化槽普及人口の総人口に対する割合）を、12%とするべく、循環型社会形成推進交付金により浄化槽の整備によるし尿及び生活雑排水の適正な処理を推進する。 | 循環型社会形成推進交付金により個人または地方公共団体が設置した浄化槽について助成を行い、汚水処理人口普及率の増加を目指す。 | 1.33.1 | H28 | 廃棄物処理施設整備計画（平成30年6月19日付けで閣議決定）に基づき、浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率（2018年度53%）を2022年度までに70%とすることを目標に、引き続き浄化槽の整備を推進する。<br><br>なお、平成30年度は浄化槽分の循環型社会形成推進交付金として7,355百万円の予算を執行。（H28年度8,400百万円・H29年度8,059百万円の予算を執行。） | 未処理のまま公共用水域に流出する生活排水を減らすことができた<br><br>H29年度末における浄化槽処理人口普及率は9.3%、汚水処理人口普及率は91.4% | 環境省（再生循環局） | （記載なし） | 循環型社会形成推進交付金：<br>毎年度実施<br><br>廃棄物処理施設整備計画：<br>【旧計画】H25～H29<br>【新計画】H30～H34 | 循環型交付金（浄化槽分）<br>http://www.env.go.jp/recycle/jokaso/data/koufu/index.html<br><br>廃棄物処理施設整備計画<br>http://www.env.go.jp/press/105612.html | （記載なし） |
| | | | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | | | R1 | 廃棄物処理施設整備計画（平成30年6月19日付けで閣議決定）に基づき、浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率（2018年度53%）を2022年度までに70%とすることを目標に、引き続き浄化槽の整備を推進する。<br><br>さらに、議員立法にて改正浄化槽法が令和元年6月に成立し、令和二年度より施行予定である。この中で、新たに特定既存単独処理浄化槽が定義され、そのまま放置すれば生活環境の保全及び公衆衛生上重大な支障が生ずるおそれのある状態にある単独処理浄化槽について、除却その他必要な措置をとるよう助言又は指導を行うことができる旨等が盛り込まれた。<br><br>なお、令和元年度は浄化槽分の循環型社会形成推進交付金として6,514百万円の予算を執行。 | 未処理のまま公共用水域に流出する生活排水を減らすことができた<br><br>R元年度末における浄化槽処理人口普及率は9.3%、汚水処理人口普及率は91.7% | 同上 | | 同上 | 同上 | |
| | | | | | | | R2 | 廃棄物処理施設整備計画（平成30年6月19日付けで閣議決定）に基づき、浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率（2018年度53%）を2022年度までに70%とすることを目標に、引き続き浄化槽の整備を推進する。<br><br>さらに、令和2年4月1日に施行された改正浄化槽法は、新たに特定既存単独処理浄化槽が定義され、そのまま放置すれば生活環境の保全及び公衆衛生上重大な支障が生ずるおそれのある状態にある単独処理浄化槽について、除却その他必要な措置をとるよう助言又は指導を行うことができる旨等が盛り込まるなど単独転換を柱の一つとするものであり、予算制度との両輪で単独転換を強力に推進する。<br><br>なお、令和2年度は浄化槽分の循環型社会形成推進交付金として9,613百万円の予算を計上し、執行予定。 | 未処理のまま公共用水域に流出する生活排水を減らす | 同上 | | 同上 | 同上 | |
| | | | | | | | R3 | 廃棄物処理施設整備計画（平成30年6月19日付けで閣議決定）に基づき、浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率（2018年度53%）を2022年度までに70%とすることを目標に、引き続き浄化槽の整備を推進する。<br><br>さらに、令和2年4月1日に施行された改正浄化槽法は、新たに特定既存単独処理浄化槽が定義され、そのまま放置すれば生活環境の保全及び公衆衛生上重大な支障が生ずるおそれのある状態にある単独処理浄化槽について、除却その他必要な措置をとるよう助言又は指導を行うことができる旨等が盛り込まるなど単独転換を柱の一つとするものであり、予算制度との両輪で単独転換を強力に推進する。<br><br>なお、令和3年度は浄化槽分の循環型社会形成推進交付金として8,613百万円の予算を計上し、執行予定。 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点課題2「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組 | | | | | | | | | | | | |
| | 2.1 | ◆対策に係る情報共有の推進<br>関係省庁及び自治体が優良事例の情報や課題等を共有することを目的としたワークショップを、原則として年1回、関係都県の協力を得ながらサンゴ群集が分布する地域において開催する。 | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | 2.1.1 | H28 | 平成29年2月11～12日に喜界島（鹿児島県喜界町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（フィールドツアー及びサンゴ礁フェス）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | 環境省 | 鹿児島県、WWF-J、自然環境研究センター | H28年度（ワークショップは毎年度開催） | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H29 | 平成30年2月3～4日に宮古島（沖縄県宮古島市）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップとシンポジウムを開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：25名程度） | | 宮古島市、沖縄県、WWF-J、沖縄県環境科学センター | H29年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議（フォローアップワークショップを兼ねる）の開催 | | H30 | 平成30年12月に石垣島（沖縄県石垣市）において、行動計画の達成状況について中間評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議」を開催するとともに、シンポジウムを併せ、計2日間で石垣島において開催した。この中間評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとした。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | | 石垣市、沖縄県 | H30年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | | R1 | 令和元年11月29～30日に与論島（鹿児島県与論町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（シンポジウム及び野外観察会）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：30名程度、野外観察会参加者数：60名程度） | | 与論町、鹿児島県 | R1年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | | | R2 | 令和3年3月に、行動計画の達成状況について最終評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020最終評価会議」をオンライン開催する。この最終評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとする。 | 関係者間の情報共有を進める。 | | | R2年度（ワークショップは毎年度開催） | | |
| | | | | | R3 | 第三期サンゴ礁生態系保全行動計画策定検討委員会を立ち上げ、検討会を2回開催した。専門家の助言のもと、関係省庁、関係地方自治体、日本サンゴ礁学会等の活動主体の協力をえて、令和4年3月に「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」を策定した。この検討会の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとする。 | 関係者間の情報共有を進める。 | | | R3年度 | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | |
| | 2.2 | ◆対策に係る情報共有の推進<br>各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためにモデル事業を、一カ所以上で実施する。 | 石垣島米原海岸におけるモデル事業の実施を通じたサンゴ礁利用に関するルールづくりの推進 | 2.2.1 | H28 | 石垣島・米原海岸において、地域が主体となった適正利用ルールが策定され、周知され、運用されることを目指し、自然資源調査、関係者へのヒアリング調査及び検討会を実施した。 | 米原海岸の現状把握や自然資源分布地図の作成。 | 環境省 | 石垣市 | H28-R2年度 | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H29 | 石垣島・米原海岸において、地域が主体となった適正利用ルールが策定され、周知され、運用されることを目指し、以下を実施した：<br>住民との意見交換会開催<br>国内外の優良事例の収集（サンゴ礁生態系保全の適正利用ルールに関して）<br>協議会の設置に向けた準備協議会開催 | 既存ルールを活用すべきことが判明し、また準備協議会の開催ができた。 | | | | 平成29年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H30 | 石垣島・米原海岸において、地域が主体となった適正利用ルールが策定され、周知され、運用されることを目指す。このため、昨年度に設立した準備協議会における議論結果を踏まえ、関係者と共に現行ルールの改正案を作成した。 | 準備協議会を開催し、ルール案を作成した。 | | | | 平成30年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書（予定） | - |
| | | | | | R1 | 石垣島・米原海岸において、ルール案の試験運用を開始し、その結果も踏まえて準備協議会による議論を重ねると共に、運営体制について協議した。 | 準備協議会を開催し、ルール案の試験運用を開始した。 | | | | | |
| | | | | | R2 | モデル事業5年目（最終年）。7月より石垣島・米原海岸において、ルールの本格運用を開始した。利用ルール検討準備会を開催し、今後の運営体制を決定する（予定）。 | サンゴ群集への利用圧力の減少。 | | | | https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/kurashi_gyosei/kurashi/kankyo/2353.html | |
| | | | | | R3 | モデル事業で立ち上げた「米原海岸保全利用ルール準備協議会」は環境省が事務局を担っていたが、令和3年度からは地元自治体である石垣市が中心となって、「米原海岸保全利用ルール推進協議会」を設置した。協議会が中心となって、利用ルールの普及啓発を実施している。 | 利用ルールの認知度が向上した。具体的データは無いが、地元住民からの声として、海岸でのたき火やキャンプが減少したと言った声がある。 | | | | https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/kankobunka/tourist_information/yonehara_rule.html | 一部は石垣市ふるさと納税 |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2.4 | ◆普及啓発事業<br>吉野熊野国立公園の串本海域公園地区に指定され、ラムサール条約湿地にも登録された串本沿岸海域のサンゴ群集が存在する生態系について、スノーケリング体験を通して学び、自然環境保全への関心と理解を深めるための取組を実施する。 | サンゴ群落の世界最北限でもある串本海域のサンゴの維持保護を目指し、地元ダイビングショップの協力でオニヒトデ等の駆除を実施 | 2.4.1 | H28 | 串本町沿岸の地域資源であるサンゴを食害しているオニヒトデや巻貝の駆除を行い、サンゴの維持回復を図るため、平成12年度から毎年5月～7月中旬及び11月～3月に駆除活動をおこなっている。 | オニヒトデの駆除 | サンゴを食害する動物駆除実行委員会（報告元：和歌山県） | 串本町 | H12年度～現在まで | （記載なし） | 環境省<br>水産庁<br>串本町 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | オニヒトデ1,721匹、巻き貝108匹を駆除 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | オニヒトデ2014匹、巻き貝105匹を駆除 | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | | 同上 |
| | | | 普及啓発事業(スノーケリング体験による学習会) | 2.4.2 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 日本で最初に国立公園の海中公園（現在の海域公園）に指定された串本沿岸海域の生態系を普及するため、近畿地方環境事務所熊野自然保護官事務所との共催で、スノーケリング体験による学習会（串本海中観察会）を2017年まで毎年2回（2016年は悪天により中止）行ってきた。<br>2006年から10年以上にわたり串本海中観察会を実施してきたが、民間のスノーケリングやダイビングサービスが串本沿岸海域で普及し、また、それら民間事業者らによるサンゴ食害生物駆除活動が立ち上がるなど、概ね目的を達成したため、2017年を最後に串本海中観察会の終了を決定した。 | （記載なし） | 和歌山県 | 近畿地方環境事務所熊野自然保護管事務所 | H18年度～H29年度 | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | 2.6 | ◆サンゴ礁保全に貢献するツーリズムの推進<br>「サンゴ礁保全のための観光レジャープログラム」を通じて、観光・レジャー産業を中心に、地域住民を含めた多様な主体が積極的にサンゴ礁保全と関わりを持つための普及啓発に向けた取組を推進する。 | 「サンゴ礁保全のための観光レジャープログラム」のWEB公開 | 2.6.1 | H28 | WEBにて公開中 | 地域や企業等が行うサンゴ礁保全活動を推進 | 沖縄県 | なし | H20年度～現在（WEB公開は不明） | http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/sango hozenkatudou program.html | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 2.7 | ◆環境保全型自然体験活動の推進<br>保全利用協定（環境保全型自然体験活動を行う場所の保全を目的として、環境保全型自然体験活動に係る事業者が策定・締結するルール）の締結を推進する。 | 保全利用協定の締結推進 | 2.7.1 | H28 | H30　7月末現在で7地域認定済、内協定区域が海域なのは2地域（石垣市白保、宜野湾市謝名瀬）。 | 環境に配慮したエコツーリズムの推進 | 沖縄県 | 協定締結先 | H14年度～現在 | http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | R1　8月末現在で6地域認定済、内協定区域が海域なのは1地域（石垣市白保）。 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 2.8 | ◆サンゴ礁生態系におけるエコツーリズムの推進<br>慶良間地域をはじめとする国立公園等において、自然観光資源を活用した地域活性化を推進するため、魅力あるエコツアープログラムの開発、ガイド等の人材育成などの地域のエコツーリズムの活動を支援する。 | 生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業）による補助 | 2.8.1 | H28 | 鹿児島県薩摩川内市、沖縄県大宜味村において、自然観光資源を活用した地域活性化を推進するため、魅力あるエコツアープログラムの開発、ガイド等の人材育成などの地域のエコツーリズムの活動を支援した。 | 自然観光資源を活用した地域活性化を推進 | 地域協議会(報告元：環境省) | （記載なし） | H28-30年度 | － | 生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 自然観光資源を活用した地域活性化を推進するため、魅力あるエコツアープログラムの開発、ガイド等の人材育成などの地域のエコツーリズムの活動を支援した。 | 自然観光資源を活用した地域活性化を推進 | | | | | 生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2.9 | － | 串間エコツーリズム推進協議会での取組 | 2.9.1 | H28 | 串間エコツーリズム推進全体構想で定められたルールに則った観光資源の活用<br>※交付金を活用した串間市全体での全体構想の作成等の事業であり、具体的なサンゴ保全の活動はない。市内の「都井岬沖の九州最大級のテーブルサンゴ群集」や「築島のサンゴ群集」がエコツーリズムの自然環境資源として位置付けられている。 | － | 串間市<br>（報告元：宮崎県） | 串間エコツーリズム推進協議会 | H29 年2月～現在（H30年度） | http://www.city.kushima.lg.jp/main/news/upload/%E3%80%90%E8%AA%8D%E5%AE%9A%E3%80%91%E4%B8%B2%E9%96%93%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0%E6%8E%A8%E9%80%B2%E5%85%A8%E4%BD%93%E6%A7%8B%E6%83%B320170207.pdf | 生物多様性保全推進交付金（エコツーリズム地域活性化支援事業） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | 2.9.2 | H28 | 地域住民参加型のエコツアーの開発<br>グラスボートを導入し、都井岬沖のテーブルサンゴ群集の観察及びクルージングツアーを実施。 | H28参加実績52名<br>H29参加実績199名<br>H30参加実績196名 | 地元漁師<br>（串間市）<br>（報告元：宮崎県） | | H28～ | http://www.city.kushima.lg.jp/enjoy/touristspots/cat/ | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | 2.9.3 | H28 | 学識者と連携した自然環境の継続的なモニタリング調査<br>※必要に応じて実施することとなっており、現状未実施 | － | 串間市<br>（報告元：宮崎県） | | 必要に応じて実施（未実施） | なし | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | 2.10 | － | 喜界島でのサンゴ礁調査研究基盤整備支援事業 | 2.10.1 | H28 | 喜界島サンゴ礁科学研究所のサンゴ飼育施設整備にかかる費用の助成（当該施設は，研究及び一般公開施設として利用されるため観光や環境学習などの推進が期待される） | サンゴ礁の保全に関する科学的知見等の蓄積が期待できる。<br>(H29)<br>研究施設・設備等を整備することで，様々な研究分野から多くの研究者が来訪し研究促進に繋がる。<br>(H28) | 鹿児島県自然保護課 | ― | H28年度～H29年度 | ― | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 取り組みなし | | | | | | |
| | | | | | R2 | 取り組みなし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 取り組みなし | | | | | | |
| | 2.11 | － | 喜界島まるごとサンゴ礁ミュージアム事業 | 2.11.1 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 「みんなでつくる喜界島サンゴマップ」の作成に係る情報収集調査及び展示 | 資料収集に43名参加 | 鹿児島県共生・協働推進課 | 喜界島サンゴ礁科学研究所および地域住民 | H29年度 | ・喜界島サンゴ礁科学研究所 kikaireef.org/index.html<br>・鹿児島県（NPO共生協働かごしま推進課） WWW.pref.kagoshima.jp/ab12/kurashi-kankyo/kyodo/kanren/suishin/index.html | NPO共生協・働かごしま推進事業 |
| | | | | | H29 | 地域住民向け講演会およびフィールドツアーの実施（喜界島サンゴサイエンスカフェの実施） | ツアー参加者数75名 | | | | | |
| | | | | | H30 | サンゴ礁サイエンスキャンプの実施 | ツアー参加者数42名 | 喜界島サンゴ礁科学研究所 | | H30年度 | | |
| | | | | | R1 | 同上 | ツアー参加者数54名 | 喜界島サンゴ礁科学研究所 | | R1年度 | https://www.kikaireefs-camp.com/ | |
| | | | | | R2 | オンラインセミナー・オンラインイベントの開催 | | 喜界島サンゴ礁科学研究所 | | R2年度 | https://kikaireefs.org/ | |
| | | | | | R3 | サンゴ礁文化を活用したモニターツアー | ツアー参加者4名 | 喜界島サンゴ礁科学研究所 | | R3年度 | https://www.facebook.com/kikaireefs | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2.12 | － | 海洋自然博物館マリンジャムでのサンゴ群落保全に貢献するツーリズムの実施 | 2.12.1 | H28 | 海中観光船の運航・シーカヤック・シュノーケリングの実施 | （記載なし） | 徳島県竹ケ島自然再生協議会（報告元：徳島県） | （記載なし） | （記載なし） | http://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/ | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | | | | 2.12.2 | H28 | サンゴ幼生の展示や産卵シーン映像の作成 | （記載なし） | | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | | | | 2.12.3 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 博物館内に小型の水族館施設を作成、生態系の展示を実施 | （記載なし） | | （記載なし） | H29年度 | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | 2.13 | － | サンゴ着床具などを使用したサンゴ増殖を進め、自然の状態でサンゴの再生が期待でき、かつ観光資源などとして重要な海域において、サンゴの着生・生育に適した環境整備を行う | 2.13.1 | H28 | 平成17年度から奄美市、瀬戸内町の海域において実施。 | － | 鹿児島県 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | － | | ― | － | ― | － |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | R1New | － | 日南海岸サンゴ群集保全協議会 | | R1 | 大学と連携し、サンゴの生息域の変化やサンゴ食害生物の生息数、多種多様な魚類・藻類等々の海洋生物の調査を行い、記録や数値化し、サンゴ食害生物駆除後の推移やサンゴ生育環境保全の重要性を裏付ける。 | ― | 日南海岸サンゴ群集保全協議会 | | R1～R2 | なし | 生物多様性保全推進支援事業 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交付金 |
| | R1New | － | サンゴ産卵見学ツアーの実施 | | R1 | サンゴ産卵見学ツアーの実施（自然再生協議会の産卵データにてR元年度のサンゴの産卵を予測し、一般観察のツアーを実施。実施期間：7月30日、31日、8月1日） | | 海陽町 | | R元年度 | http://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/ | 海陽町 |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | R1New | － | 竹ケ島海の生き物観察会の実施 | | R1 | 竹ケ島海の生き物観察会（サンゴ群落周辺の海に生息する生き物を探し、生態を学ぶ。また、海での適した遊び方などのレクチャーを行い、海に親しみをもってもらうための活動） | 8月末日現在実施中 | 海陽町 | | R元年度 | http://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/ | 海陽町 |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組 | | | | | | | | | | | | |
| 基礎的な取組 | | | | | | | | | | | | |
| | 3.1 | ◆対策に係る情報共有の推進<br>関係省庁及び自治体が優良事例の情報や課題等を共有することを目的としたワークショップを、原則として年1回、関係都県の協力を得ながらサンゴ群集が分布する地域において開催する。 | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | 3.1.1 | H28 | 平成29年2月11～12日に喜界島（鹿児島県喜界町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（フィールドツアー及びサンゴ礁フェス）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | 環境省 | 鹿児島県、WWF-J、自然環境研究センター | H28年度（ワークショップは毎年度開催） | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及びシンポジウム開催 | | H29 | 平成30年2月3～4日に宮古島（沖縄県宮古島市）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップとシンポジウムを開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：25名程度） | | 宮古島市、沖縄県、WWF-J、沖縄県環境科学センター | H29年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議（フォローアップワークショップを兼ねる）の開催 | | H30 | 平成30年12月に石垣島（沖縄県石垣市）において、行動計画の達成状況について中間評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020中間評価会議」を開催するとともに、シンポジウムを併せ、計2日間で石垣島において開催した。この中間評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとした。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：40名程度） | | 石垣市、沖縄県 | H30年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html（今後掲載予定） | - |
| | | | サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020フォローアップワークショップ及び関連イベント開催 | | R1 | 令和元年11月29～30日に与論島（鹿児島県与論町）において、サンゴ礁生態系保全行動計画およびサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言のフォローアップを図り、サンゴ礁域の都県関係者等が情報や課題を共有することを目的としたワークショップと関連イベント（シンポジウム及び野外観察会）を開催した。 | 関係者間の情報共有が進められた（ワークショップ参加者数：30名程度、野外観察会参加者数：60名程度） | | 与論町、鹿児島県 | R1年度（ワークショップは毎年度開催） | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | - |
| | | | | | R2 | 令和3年3月に、行動計画の達成状況について最終評価を行い、今後の方向性を検討するため、「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020最終評価会議」をオンライン開催する。この最終評価会議の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとする。 | 関係者間の情報共有を進める。 | | | R2年度（ワークショップは毎年度開催） | | |
| | | | | | R3 | 第三期サンゴ礁生態系保全行動計画策定検討委員会を立ち上げ、検討会を2回開催した。専門家の助言のもと、関係省庁、関係地方自治体、日本サンゴ礁学会等の活動主体の協力をえて、令和4年3月に「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」を策定した。この検討会の内容の一部には、行動計画のフォローアップのための議事が含まれ、フォローアップワークショップとしての役割も兼ね得るものとする。 | 関係者間の情報共有を進める。 | | | R3年度 | http://www.env.go.jp/nature/biodic/coralreefs/ins/index.html | |
| | 3.2 | ◆対策に係る情報共有の推進<br>各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためにモデル事業を、一カ所以上で実施する。 | 喜界島におけるモデル事業の実施 | 3.2.1 | H28 | 喜界島において、地域が主体となったサンゴ礁文化の掘り起こしと普及啓発が行われることを目指し、喜界島で社会調査を実施した。 | 喜界島におけるサンゴ礁文化の現状を把握した。 | 環境省 | 鹿児島県、喜界町、喜界島サンゴ礁科学研究所、奄美群島サンゴ礁保全対策協議会、WWF-J | H28-R2年度 | 平成28年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H29 | 喜界島において、地域が主体となったサンゴ礁文化の掘り起こしと普及啓発が行われることを目指し、以下を実施した：<br>現地調査<br>ヒアリング調査<br>研修会開催（地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながり構築について） | サンゴ礁文化の掘り起こし、普及啓発や関係者間での能力養成ができた。 | | | | 平成29年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | - |
| | | | | | H30 | 喜界島において、地域が主体となったサンゴ礁文化の掘り起こしと普及啓発が行われることを目指し、今年度は、昨年度業務で選定した4集落（荒木・上嘉鉄・志度桶・早町）において、ワークショップの開催と資源調査を実施し、人のつながり作りのためのツールとして、資源マップを作成した。 | 昨年度に引き続き、サンゴ礁文化の掘り起こし、集落ごとのサンゴ礁資源マップが作成され、より地域が主体となった啓発活動を行うことができた。 | | | | 平成30年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書（予定） | - |
| | | | | | R1 | 喜界島において、地域が主体となったサンゴ礁文化の掘り起こしと普及啓発が行われることを目指し、前年度作成したサンゴ礁資源リストとマップを活用し、地域課題の整理と実現に向けたサンゴ礁資源の利活用方針、具体的なアクションプランを定めた。 | 喜界島内の荒木集落と早町小校区において地域課題解決に向けた組織づくりと、具体的な活動を開始する事ができた。 | | | | 平成31(令和元)年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | |
| | | | | | R2 | 喜界島において、前年度までに発掘、整理したサンゴ礁文化を島の共有財産と位置づけ、今後その財産の継続的な利活用を通じ、サンゴ礁保全と地域づくりを自主的に、かつ継続的に行う団体設立に向けた協議と調整を実施する。 | 「荒木盛り上げ隊」の結成により、サンゴ礁文化を活用し、持続可能な荒木集落の発展存続が目指される。また、サンゴ礁文化連絡会議設立準備会の発足により、喜界島全体でのサンゴ礁文化の利活用が図られる。 | | 鹿児島県、喜界町、喜界島サンゴ礁科学研究所、WWF-J | | 令和2年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施報告書(予定) | |
| | | | | | R3 | 荒木集落では、サンゴ礁文化や伝統を保存活用し持続可能な集落を目指す取組が「荒木盛り上げ隊」によって実施予定。また、喜界島でサンゴ礁文化に係る活動を行う組織と個人が連携し、情報共有と協働の場を創出することを目的としたサンゴ礁文化連絡会議をR3年度中に設立予定。 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.5 | － | 多様な主体を横断的に結びつけ、サンゴ礁保全を推進する取組として、地域で行われているサンゴ礁の保全活動や団体などの連携促進を実施 | 3.5.1 | H28 | ・平成28年7月：総会の開催（協議会会員の交流会も実施）<br>・平成29年2月25日～3月12日：サンゴ礁ウィークを定め、関係団体によるイベントを実施。<br>・平成28年11月～平成29年2月：サンゴ礁をテーマとした絵画・写真ｺﾝﾃｽﾄの実施 | サンゴ礁保全の推進 | 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 | － | H20年度～現在 | https://coralreefconservation.web.fc2.com/ | 寄付金 |
| | | | | | H29 | ・平成29年6月：総会の開催（協議会会員の交流会も実施）<br>・平成30年2月24日～3月11日：サンゴ礁ウィークを定め、関係団体によるイベントを実施。<br>・平成29年11月～平成30年1月：サンゴ礁をテーマとした絵画・写真ｺﾝﾃｽﾄの実施 | | | | | | |
| | | | | | H30 | ・平成30年7月：総会の開催（協議会会員の交流会も実施）<br>・平成31年2月23日～3月10日：サンゴ礁ウィークを定め、関係団体によるイベントを実施。<br>・平成30年11月～平成31年2月：サンゴ礁をテーマとした絵画・写真ｺﾝﾃｽﾄの実施 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・令和元年年7月：総会の開催（協議会会員の交流会も実施）<br>・令和2年2月22日～3月8日：サンゴ礁ウィークを定め、関係団体によるイベントを実施。<br>・平成元年12月～令和2年1月：サンゴ礁をテーマとした絵画・写真ｺﾝﾃｽﾄの実施 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | ・令和2年7月：総会の開催<br>・サンゴ礁ウィークはWeb開催を検討 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | （具体的な活動はなし） | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 3.6 | － | サンゴ礁の保全活動を行っている主体への情報提供 | 3.6.1 | H28 | ・ホームページやMLを活用した情報提供や情報発信 | サンゴ礁保全の推進 | 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 | － | H20年度～現在 | https://coralreefconservation.web.fc2.com/ | 寄付金 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 3.7 | － | 地域で行われているサンゴ礁保全活動への支援 | 3.7.1 | H28 | ・サンゴ礁保全などに対する相談への専門的なアドバイス等<br>・サンゴ礁保全に関する調査／普及啓発等を実施する3団体への支援を実施。 | サンゴ礁保全の推進 | 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 | － | H20年度～現在 | https://coralreefconservation.web.fc2.com/ | 寄付金 |
| | | | | | H29 | ・サンゴ礁保全などに対する相談への専門的なアドバイス等<br>・サンゴ礁保全に関する調査／普及啓発等を実施する5団体への支援を実施。<br>・ジュニアサンゴレンジャー事業として1団体への支援を実施。 | | | | | | |
| | | | | | H30 | ・サンゴ礁保全などに対する相談への専門的なアドバイス等<br>・サンゴ礁保全に関する調査／普及啓発等を実施する4団体への支援を実施。<br>・ジュニアサンゴレンジャー事業として8団体への支援を実施。 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・サンゴ礁保全などに対する相談への専門的なアドバイス等<br>・サンゴ礁保全に関する調査／普及啓発等を実施する4団体への支援を実施。<br>・ジュニアサンゴレンジャー事業として9団体への支援を実施。 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | ・サンゴ礁保全などに対する相談への専門的なアドバイス等 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 3.8 | － | 高緯度サンゴ群集域については、生態学的にも社会的にもサンゴ礁域とは異なることを踏まえ、沿岸域生態系を全体としてどのように保全すべきかの検討を進める | 3.8.1 | H28 | ・気候変動によるサンゴ分布可能域の将来予測と適応策の検討（H29～H31） | 足摺宇和海国立公園において、気候変動影響の予測と適応策の検討を進めることができた。 | 環境省（戦略室） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | － | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

つながりの構築に向けた取組

| No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3.9 | ◆沖縄の沿岸域総合利活用推進事業<br>減少傾向が顕著である沿岸性水産資源の回復・持続的利用を図るため、漁獲実態、資源動向、生態情報、沿岸及び陸域の環境情報を集積、分析を行い、水産物、沿岸環境の総合的な管理手法、利活用法を検討する。 | （記載なし） | 3.9.1 | H28 | 記載なし | （記載なし） | 沖縄県 | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | ※事業終了のため実施していない | | | | | | |
| | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| 3.10 | ◆琉球諸島沿岸海岸保全基本計画<br>琉球諸島沿岸では、古くから浜下りなどの信仰的な行事やサンゴ礁内でのイザリなどの日常的な利用が行われてきたが、直立堤等により海岸へのアクセス性が低下し、利用が困難になった海岸が存在することから、今後の海岸保全施設整備においては、利用者に配慮した海岸保全施設整備を推進する | 地域住民が利用しやすい緩傾斜式護岸の整備 | 3.10.1 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | これまでの直立護岸では、海浜の利用が難しかったが緩傾斜式の護岸を採用し整備することで、地域住民が安全に海浜を利用できるようになった。海浜と親しむ事により、環境保全の意識が高まり海岸清掃活動や環境教育の場所として利用されることが期待される。 | 海岸清掃を実施した際、海岸を利用する住民の参加が多くあった。 | 沖縄県 | 海岸管理者は県であるため、協同先は無し。 | H21－H30 | 特になし | 沖縄振興公共投資交付金 |
| | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | H21-R3 | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 3.11 | ◆薩南諸島沿岸海岸保全基本計画<br>奄美群島国定公園の豊かな自然を代表するサンゴ礁の海岸に親しみ、地域の海岸に息づく文化を後世に守り伝える等の事業に配慮するなど、海岸における公衆の適正な利用を促進するための施策を推進する。 | 景観・環境に配慮した海岸整備 | 3.11.1 | H28 | 大和村の大金久海岸において，景観・環境に配慮した人エリーフでの整備を行っている。 | － | 鹿児島県河川課 | － | H26年度～現在 | － | 社会資本整備総合交付金（防災・安全交付金） |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 3.12 | ◆里海の創生の推進<br>多様な魚介類等が生息し、人々がその恩恵を将来にわたり享受できる自然の恵み豊かな里海の創生を支援するため、平成22 年度に作成した里海づくりの手引書や全国の実践事例等の情報について、ウェブサイト「里海ネット」で提供する。また、里海づくり活動の状況を全国規模で把握し取りまとめるとともに、「豊かな海」の観点から着目されている藻場・干潟・サンゴ礁等に関わる里海づくり活動の現状や役割等に関する情報を発信する。 | 「里海ネット」等を通じた情報発信による里海づくり活動の支援 | 3.12.1 | H28 | 「里海ネット」を通じた情報発信を行うことで、里海づくり活動を支援した。<br>また、「豊かな海」を目指して創意工夫のもと進められている取組を収集・整理し、事例集を作成した。 | － | 環境省（水大気局） | － | H28-R2年度 | 「里海ネット」<br>https://www.env.go.jp/water/heisa/satoumi/index.html<br><br>「豊かな海」を目指した取組の事例集<br>https://www.env.go.jp/water/heisa/yutakanaumi.html<br><br>「きれいで豊かな海を目指して　～地域が主体となる閉鎖性海域の環境改善の手引き～」<br>http://www.env.go.jp/water/heisa/post_26.html | － |
| | | | | H29 | 「里海ネット」を通じた情報発信を行うことで、里海づくり活動を支援した。<br>また、「豊かな海」の実現に向けて、自治体等が地域の関係者とともに具体的な取組手順やケーススタディを取りまとめた「地域が主体となる閉鎖性海域の環境改善の手引き」を作成した。 | － | | | | | － |
| | | 里海づくり活動の実施状況調査及び「里海ネット」等を通じた情報発信による里海づくり活動の支援 | 3.12.2 | H30 | 都道府県や市町村、NPO団体等を対象にアンケート調査を実施し、全国の里海づくりに関する活動実態等を把握・整理・分析し、その結果を踏まえ、「里海ネット」の内容を更新するとともに、里海シンポジウムを開催し、広く情報発信を行った。 | 全国における里海づくり活動数の把握 | | | | | － |
| | | 「里海ネット」等を通じた情報発信による里海づくり活動の支援 | | R1 | 「里海ネット」を通じた情報発信を行うことで、里海づくり活動を支援した。 | | | 同上 | 同上 | 同上 | - |
| | | 「里海ネット」等を通じた情報発信による里海づくり活動の支援 | | R2 | 同上 | （今年度実施中） | | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | 「里海ネット」等を通じた情報発信による里海づくり活動の支援 | | R3 | 同上 | | | 同上 | | 同上 | |
| | | | | H28 | 県内最大のショッピングモールで「日南海岸のサンゴといきもの写真展」を開催。地元の大学やテレビ局、かごしま水族館などの協力の元、写真展示のみでなくサンゴの映像や模型展示、サンゴの講演などを実施。 | 来場者数<br>H28　1,929名<br>H30　1,263名 | 宮崎県 | 日南海岸サンゴ群集保全協議会（宮崎県・日南市・串間市・宮崎大学・県スキューバダイビング安全対策協議会他） | H27年度～30年度 | （記載なし） | 生物多様性保全推進交付金 |
| | | | | H29 | 実施無し | | | | | | |
| | | | | H30 | 県内最大のショッピングモールで「日南海岸のサンゴといきもの写真展」を開催。地元の大学やテレビ局、かごしま水族館などの協力の元、写真展示のみでなくサンゴの映像や模型展示、サンゴの講演などを実施。 | 来場者数<br>H28　1,929名<br>H30　1,263名 | 宮崎県 | 日南海岸サンゴ群集保全協議会（宮崎県・日南市・串間市・宮崎大学・県スキューバダイビング安全対策協議会他） | H27年度～30年度 | （記載なし） | 生物多様性保全推進交付金 |
| | | | | R1 | 同上 | R1　2,428名 | | | | | |
| | | | | R2 | 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、写真展示のみを実施予定。 | | | | | | |
| | | | | R3 | R2年度と同様の内容を実施予定。 | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交付金 |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.13 | ◆サンゴ群集保全活動支援事業<br>日南海岸サンゴ群集保全協議会が、県民へのサンゴ保全と生物多様性の重要性を広く周知するためのイベントや地域住民等を対象とした環境教育等の普及啓発活動を実施しており、協議会が活動するにあたっての支援を行う。 | 宮崎県民への普及啓発事業 | 3.13.1 | H28 | 実施無し | | | | | | |
| | | | | | H29 | 地元の青少年自然の家と協力し、夏休みに浅瀬でのスノーケリングによるサンゴの観察会を実施するとともに、宮崎大学によるサンゴのおはなし（講義）を実施 | 地元小学生4年生～6年生30名に対する普及啓発 | 宮崎県 | の家<br>・日南海岸サンゴ群集保全協議会 | H29年 | なし | 生物多様性保全推進交付金 |
| | | | | | H30 | 実施無し | | | | | | |
| | | | | | R1 | 昨年と同様の場合は「同上」とご記入ください | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | 上記と同様の内容を計画していたが天候悪化のため中止とした | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交付金 |
| | | | | | H28 | 実施無し | | | | | | |
| | | | | | H29 | 実施無し | | | | | | |
| | | | | | H30 | 浅瀬でサンゴが観察できる築島地区において、スノーケリングによるサンゴ観察、サンゴ講話、サンゴの海の魚の恵みの入った海鮮汁の提供。 | 地元小学生4年生～6年生15名に対する普及啓発 | 宮崎県 | 日南海岸サンゴ群集保全協議会 | H30年 | なし | 生物多様性保全推進交付金 |
| | | | | | R1 | 同上 | 台風のため中止 | | | | | |
| | | | | | R2 | 浅瀬でサンゴが観察できる大島地域において、スノーケリングによるサンゴ観察、サンゴ講話、海洋ゴミ問題の講話を実施。 | 地元小学生4年生～6年生10名に対<br>する普及啓発 | | | | | |
| | | | | | R3 | 上記と同様の内容を計画していたが天候悪化のため中止とした | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交付金 |
| | | | 日南海岸サンゴ群集保全協議会の運営 | 3.13.2 | H28 | 協議会内で各者の協議を継続して行い、当該支援事業終了後も継続して協議の場が運営できる環境づくり（今後の課題） | 協議会内の合意形成 | 宮崎県 | 日南海岸サンゴ群集保全協議会（宮崎県・日南市・串間市・宮崎大学・県スキューバダイビング安全対策協議会他） | H27年度～ | なし | 生物多様性保全推進交付金 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交 |
| | 3.14 | － | サンゴ礁生態系の保全と持続可能な利用の取組、地域経済に資する優良事例などについて情報共有 | 3.14.1 | H28 | 例えば平成29年度に、「サンゴ礁生態系保全状況の評価に向けた調査検討業務」の中で、サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020の3つの課題に関する優良事例の収集を実施。 | － | 環境省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.15 | － | サンゴ礁と共生するみなとづくりに向けた取組 | 3.15.1 | H28 | ・石垣港：H28-30dに生物共生型護岸のサンゴのモニタリングを実施<br>・竹富南航路：H28dにサンゴの移植、H28-30dにモニタリングを実施<br>・平良港：H30dにサンゴの移植を実施 | － | 国土交通省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・石垣港：生物共生型護岸のモニタリングを実施<br>・竹富南航路：サンゴの移植及びモニタリングを実施<br>・平良港：移植したサンゴのモニタリングを実施 | － | 国土交通省 | － | － | － | 平良港整備事業費 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 石垣港：生物共生型護岸のモニタリングを実施。<br>竹富南航路：サンゴのモニタリングを実施。 | 環境保全 | 国土交通省 | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.16 | － | サンゴ礁などの海辺の自然環境を活かした自然体験・環境教育の取組推進 | 3.16.1 | H28 | ・海の日のイベントでサンゴ着生状況のパネル展示<br>石垣港：H28-30dに実施<br>平良港：H30dに実施 | － | 国土交通省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・海の日のイベントでサンゴ着生状況のパネル展示を石垣港、平良港にて実施。 | 平良港のサンゴ委嘱の取組への理解を深め、平良港の港湾整備事業への関心を広く深めることが出来た。 | | － | － | － | 平良港整備事業費 |
| | | | | | R2 | 新型コロナウイルス感染拡大によりイベント中止。 | | | | | | |
| | | | | | R3 | イベントが開催出来れば、これまで同様に実施予定。 | | | | | | |
| | 3.17 | － | 「生物多様性保全推進支援事業」などにより、海洋保護区など国土の生物多様性の保全上重要な地域や生態系ネットワークの要となる地域における保全・再生活動など、国土の生物多様性の保全のために地域が主体的に行う取組を支援 | 3.17.1 | H28 | 生物多様性保全推進支援事業により、日南海岸サンゴ群落保全協議会（事務局：宮崎県）によるサンゴ群落保全推進支援事業を実施。 | － | 環境省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 生物多様性保全推進支援事業によるサンゴ礁保全関係の取組の採択がなかった。 | | | | | | |

## 重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組

### つながりの継承に向けた取組

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3.18 | ◆西表石垣国立公園における子ども自然ふれあい事業<br>西表石垣国立公園内の小学校において、子どもたちのサンゴ学習等の自然とのふれあい活動や環境プログラムを実施して、豊かな自然環境への理解とサンゴ礁などの保全に対する意識を高め、国立公園における自然環境の保全に積極的に取り組む将来世代の育成を支援する。 | 小学校の「総合的な学習の時間」と連携したサンゴ学習等の自然とのふれあい活動を実施することで、地域の児童の生物多様性及び自然環境保全への関心を高める。 | 3.18.1 | H28 | 石垣島内の小学校（近年は毎年1校を選定）を対象に、小学校の「総合的な学習の時間」と連携し、座学および野外でのスノーケリングを用いた体験学習を行った。 | 参加した小学生のサンゴ礁に対する興味理解の向上と、その保全にたいする意識の向上が見られた。 | 環境省沖縄奄美自然環境事務所 | わくわくサンゴ石垣島（請負先）、フサキリゾート（スノーケリング体験学習実施地） | H28(活動はH14から継続) | 平成28年度西表石垣国立公園子どもふれあい業務報告書 | － |
| | | | | H29 | 石垣市内の小学校と連携し、自然観察・生き物調査・体験学習等を実施 | 石垣市民に対する普及啓発に貢献（石垣市新川小学校5年生80名と5回実施） | | | H29 年度 | | － |
| | | | | H30 | 石垣島内の小学校（近年は毎年1校を選定）を対象に、小学校の「総合的な学習の時間」と連携し、座学および野外でのスノーケリングを用いた体験学習を行った。 | 参加した小学生のサンゴ礁に対する興味理解の向上と、その保全にたいする意識の向上が見られるよう務めている。 | | わくわくサンゴ石垣島（請負先） | H30(活動はH14から継続) | 平成30年度西表石垣国立公園子どもふれあい業務報告書（予定） | － |
| | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 3.19 | ◆水産多面的機能発揮対策事業<br>漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援する。 | 水産多面的機能発揮対策事業 | 3.19.1 | H28 | 水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。具体的には、高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等(H28・29共に)において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。 | http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_thema/sub391.html<br>(H29は集計中) | 農林水産省 | 交付先 | 平成25年度～現在（H30年度） | http://www.hitoumi.jp/ | － |
| | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | R1 | 水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。具体的には、高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。 | http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_thema/sub391.html | 農林水産省 | 同上 | 平成25年度～現在<br>（R元年度） | 同上 | ― |
| | | | | R2 | 水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。具体的には、高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県5件等において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。 | 同上 | 農林水産省 | 同上 | 平成25年度～現在<br>（R2年度） | 同上 | － |
| | | | | R3 | 水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。具体的には、高知県2件、鹿児島県1件・沖縄県5件等において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。 | 同上 | 農林水産省 | 同上 | 平成25年度～現在<br>（R3年度） | 同上 | － |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.20 | － | 水産多面的機能発揮対策事業 | 3.20.1 | H28 | 枕崎や指宿などでのオニヒトデ駆除・藻場の保全 | オニヒトデの駆除により，サンゴ礁面積に徐々に増加傾向がみられる。 | 鹿児島県水産振興課 | － | H25～現在 | － | 水産多面的機能発揮対策事業費用 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.21 | ◆サンゴ礁保全活動支援事業<br>サンゴ礁の現況を把握するモニタリング、県民に対するサンゴ礁保全活動の普及啓発、サンゴ食害生物除去などの海域対策を実施する団体を支援する。 | サンゴ礁保全活動支援事業（補助金の交付） | 3.21.1 | H28 | H30年6月現在、H30年度の公募実施中。<br>H30年３月末現在で78団体（うち平成29年度は２団体、平成28年度は12団体）を支援 | 地域や企業等が行うサンゴ礁保全活動を推進 | 沖縄県 | 支援先 | H23年度～R1年度 | なし | 沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | R1年３月末現在で81団体（うち平成30年度は3団体、平成29年度は2団体）を支援 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 補助金交付終了（R2年３月末現在で、85団体（うち令和元年度は4団体）を支援 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.22 | － | 宇和海海域公園サンゴ保護対策の支援 | 3.22.1 | H28 | 宇和海海中資源保護対策協議会が実施するシロレイシガイダマシ類の駆除やモニタリングに要する経費を補助 | 補助1件（H28・H29・H30年それぞれ） | 愛媛県 | （経費の補助先：愛南町） | H3年度～現在（H30年度） | なし | 県費 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 補助1件（H28・H29・H30年・R1年それぞれ） | 同上 | 同上 | H3年度～現在（R1年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 昨年度と同様であれば「同上」とご記入ください。変更あれば記載をお願いいたします。 | 補助1件（H28・H29・H30年・R1年・R2年それぞれ） | 同上 | 同上 | H3年度～現在（R2年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | R3年度も継続して実施の場合は「同上」とご記入下さい。変更あれば記載をお願いいたします。実施しない場合は「実施なし」とご記入ください。 | 補助1件（H28・H29・H30年・R1年・R2年・R3年それぞれ） | 同上 | 同上 | H3年度～現在（R3年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | 3.22.2 | H28 | 足摺宇和海保全連絡協議会（事務局：環境省土佐清水自然保護官事務所及び公益財団法人黒潮生物研究所）に参画し、最も保全上の脅威であったオニヒトデ等のサンゴ食害生物の駆除事業の進捗状況やサンゴの被度の現況等について関係者間で情報を共有 | 年に2回参加 | 愛媛県（足摺宇和海保全連絡協議会） | 足摺宇和海保全連絡協議会 | H20年度～現在（H30年度） | なし | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R1年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 昨年度と同様であれば「同上」とご記入ください。変更あれば記載をお願いいたします。 | 未実施 | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R2年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | R3年度も継続して実施の場合は「同上」とご記入下さい。変更あれば記載をお願いいたします。実施しない場合は「実施なし」とご記入ください。 | 未定 | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R3年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | H28 | 食害に対して、駆除実績等を踏まえた傾向の分析・関係者間での駆除エリア分担等連携強化<br>H28年度に関しては、各機関が28年度の駆除状況等を踏まえ、29年度に備えた効果的な事業間の調整や、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）について検討を進め、モニタリング方法の確立や教育利用・協力体制に関する勉強会を実施 | 県から1名から2名の参加<br>サンゴ食巻貝等による食害からのサンゴの保護に関しては、<br>〇27年度実績：駆除回数10回（ダイバー数：述べ76名）、駆除数：オニヒトデ181個体（内酢酸注射174個体）、サンゴ食巻貝7,427個体<br>〇28年度実績：駆除回数10回（ダイバー数：述べ75名）、駆除数：オニヒトデ227個体（内酢酸注射204個体）、サンゴ食巻貝4,196個体<br>〇29年度実績：駆除回数10回（ダイバー数：述べ76名）、駆除数：オニヒトデ97個体（内酢酸注射55個体）、サンゴ食巻貝6,758個体 | 愛媛県（足摺宇和海保全連絡協議会） | 足摺宇和海保全連絡協議会 | H20年度～現在（H30年度） | なし | なし |

| | No. | 行動計画に記載のある目標<br>（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間<br>（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 3.22.3 | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 食害に対して、駆除実績等を踏まえた傾向の分析・関係者間での駆除エリア分担等連携強化<br>H30年度に関しては、各機関が29年度の駆除状況等を踏まえ、30年度に備えた効果的な事業間の調整や、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）について検討を進め、モニタリング方法の確立や教育利用・協力体制に関する勉強会を実施 | 上記に追加<br>〇30年度実績<br>駆除回数10回（ダイバー数：述べ76名）、駆除数：オニヒトデ523個体（内酢酸注射504個体）、サンゴ食巻貝1,754個体 | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R1年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 昨年度と同様であれば「同上」とご記入ください。変更あれば記載をお願いいたします。 | 上記に追加<br>〇R元年度実績<br>駆除回数10回（ダイバー数：述べ70名）、駆除数：オニヒトデ929個体（内酢酸注射927個体）、サンゴ食巻貝161個体<br>〇R2年度実績<br>駆除回数10回（ダイバー数：述べ69名）、駆除数：オニヒトデ534個体（内酢酸注射532個体）、サンゴ食巻貝46個体 | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R2年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | R3年度も継続して実施の場合は「同上」とご記入下さい。変更あれば記載をお願いいたします。実施しない場合は「実施なし」とご記入ください。 | | 同上 | 同上 | H20年度～現在（R3年度） | 同上 | 同上 |
| | | | | 3.22.4 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）、モニタリング方法の確立、教育利用等に関する検討等の推進 | （記載なし） | 愛媛県（足摺宇和海保全連絡協議会） | 足摺宇和海保全連絡協議会 | （記載なし） | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 昨年度と同様であれば「同上」とご記入ください。変更あれば記載をお願いいたします。 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | R3年度も継続して実施の場合は「同上」とご記入下さい。変更あれば記載をお願いいたします。実施しない場合は「実施なし」とご記入ください。 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 3.23 | － | サンゴ礁保全対策事業<br>（奄美群島成長戦略推進交付金事業） | 3.23.1 | H28 | 奄美群島サンゴ礁保全対策協議会の運営・ウェブサイトの管理運営 | 地域住民や島外に向けてサンゴ礁の価値やサンゴ礁保全に向けた取り組み等の活動内容を発信する。 | 奄美群島内12市町村（報告元：鹿児島県） | － | H17年度～現在 | https://www.amami-sango.com/blog | 奄美群島成長戦略推進交付金事業 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | | | | 3.23.2 | H28 | シンポジウムの開催（奄美群島サンゴ礁シンポジウム） | － | | － | H20年度～現在 | https://www.amami-sango.com/blog | |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 今年度はなし（2年に1回開催） | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 新型コロナウィルス感染拡大のため開催中止 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 開催なし（2年に1回開催） | | | | | | |
| | | | | 3.23.3 | H28 | 重点海域でのオニヒトデ駆除 | 継続的に駆除を行うことによりサンゴ礁の保全につながる | | － | H16年度～現在 | https://www.amami-sango.com/report | |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 3.23.4 | H28 | サンゴの生育状況等のモニタリング調査、モニタリング講習会 | 継続的に調査を行うことにより、サンゴ礁の変化を把握することができる。また、モニタリング講習会を開催し調査手法の統一を図る。 | | － | H17年度～現在 | https://www.amami-sango.com/report | |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.24 | － | 普及啓発事業 | 3.24.1 | H28 | 自然再生協議会の運営による多様な主体との連携調整 | （記載なし） | 徳島県竹ケ島自然再生協議会（報告元：徳島県） | （記載なし） | H17 年度～現在（H30年度） | http://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/aquarium/conservation-activities | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | | | | 3.24.2 | H28 | 地域おこし協力隊による竹ケ島魅力化事業 | （記載なし） | 海陽町（報告元：徳島県） | （記載なし） | H28年度～現在（H30年度） | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | | | | 3.24.3 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H30 | シンポジウムの開催<br>（H30年度．３．２開催予定：名称未定）<br>（H29年度　マリンジャムへ みなさんGO！）<br>（H28年度海陽リボーン（再生・復活）・水産創生シンポジウム） | （記載なし） | 海陽町（報告元：徳島県） | （記載なし） | H28年度～現在（H30年度） | ― | （記載なし） |
| | | | | | R1 | 同上（R元年度シンポジウム未定） | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.25 | － | 人材育成（サンゴ学習とサンゴの移植） | 3.25.1 | H28 | 室戸阿南海岸国定公園内での、地元小学生との活動（サンゴ学習・サンゴの移植） | （記載なし） | 徳島県竹ケ島自然再生協議会（報告元：徳島県） | （記載なし） | H16年度～現在（H30年度） | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | サンゴの移植の拡大（旧宍喰町→海陽町全域に拡大） | | 海陽町 | | サンゴの移植はH16年から、海陽町全域は今年度から | http://marine.kaiyo-kankou.jp/index.php/en/aquarium/conservation-activities | 海陽町 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.26 | － | 竜串の自然再生につながる活動<br>サンゴの産卵観察会 | 3.26.1 | H28 | 一般のダイバーと竜串湾内におけるサンゴに関するレクチャー及びサンゴの産卵を観察 | （記載なし） | 竜串観光振興会、黒潮生物研究所、足摺海洋館<br>（報告元：高知県） | （記載なし） | H22年度～H30年度 | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |
| | | | 竜串の自然再生につながる活動<br>市民参加型モニタリングイベント開催 | 3.26.2 | H28 | ①市民参加型のサンゴモニタリング<br>②磯の生き物調査、試食 | 参加者数<br>①10名、②15名 | 環境省、黒潮生物研究所<br>（報告元：高知県） | （記載なし） | H27年度～ | 竜串自然再生プロジェクトHP、平成28年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務） | マリンワーカー事業 |
| | | | | | H29 | ①市民参加型のサンゴモニタリング<br>②磯の生き物調査、試食 | 参加者数<br>①10名、②9名 | | （記載なし） | | 竜串自然再生プロジェクトHP、平成29年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務） | |
| | | | | | H30 | ①砂浜の漂着物を使っての標本箱づくり<br>②市民参加型のサンゴモニタリングイベント<br>③磯の生き物調査と、試食 | 参加者数<br>①49名　②8名、③5名 | | （記載なし） | | 竜串自然再生プロジェクトHP、平成30年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務） | |
| | | | | | R1 | ①砂浜の漂着物を使っての標本箱づくり<br>②市民参加型のサンゴモニタリングイベント | ①38名　②11名 | 同上 | 同上 | 同上 | 竜串自然再生プロジェクトHP、令和元年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務） | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | ①15名　②9名 | 同上 | 同上 | 同上 | 土佐清水ジオパーク構想HP,竜串自然再生データベース（令和2年度マリンワーカー事業（竜串自然再生事業海域調査業務） | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | | | 環境教育 | 3.26.3 | H28 | 地元小学校における環境教育 | （記載なし） | 環境省、足摺海洋館、黒潮生物研究所、土佐清水森林組合他<br>（報告元：高知県） | （記載なし） | H17年度～ | （記載なし） | （記載なし） |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.27 | － | 和歌山の沿岸海域など自然環境が抱える問題を把握し、情報を発信し、保全活動を継続する | 3.27.1 | H28 | 田辺白浜エリアで、以下実施<br>・サンゴ調査・保全活動（モニタリング）<br>・サンゴマップづくり<br>・サンゴ移植・調査活動<br>・オニヒトデ駆除活動<br>・海洋環境体験学習の実施　等 | 環境学習、オニヒトデの駆除 | 特定非営利活動法人　自然体験学習支援センター<br>（報告元：和歌山県） | 和歌山大学<br>和歌山県 | 平成16年～現在まで | http://study.iinaa.net/index.html | 環境省<br>和歌山県 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 昨年と同様の場合は「同上」とご記入ください | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.28 | － | サンゴ移植活動の拡大 | 3.28.1 | H28 | 移植地点の模索、拡大のための広報活動(H29)<br>サンゴの移植と観察の継続(H30) | H28移植69枚中、42枚生残確認、18枚斃死、9枚脱落<br>(今年度実施中) | 徳島県竹ケ島自然再生協議会<br>(報告元：徳島県) | (記載なし) | 平成17年～現在(H30年度) | (記載なし) | (記載なし) |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.29 | － | オニヒトデの駆除 | 3.29.1 | H28 | 陸揚げによるオニヒトデの駆除（土佐清水市） | 1584個体を駆除(H28)<br>3030個体を駆除(H29)<br>3842個体を駆除（H30） | 環境省、みんなの海を育てる会（水産庁補助事業の実施主体）<br>(報告元：高知県) | (記載なし) | 不明 | 竜串自然再生プロジェクトHP | マリンワーカー事業、<br>水産庁水産多面的機能発揮対策事業 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 酢酸駆除法によるオニヒトデの駆除（宿毛市沖の島）<br>（大月町） | 宿毛市沖の島：757個体、大月町：2135個体を駆除 | 宿毛湾環境保全連絡協議会（水産庁補助事業の実施主体）<br>（報告元：高知県） | | | | 水産庁水産多面的機能発揮対策事業 |
| | | | | | R1 | 陸揚げによるオニヒトデの駆除（土佐清水市）<br>酢酸駆除法によるオニヒトデの駆除（宿毛市沖の島）<br>（大月町） | 土佐清水市：2855固体、宿毛市沖の島：1174個体、大月町：1163個体を駆除 | 宿毛湾環境保全連絡協議会（水産庁補助事業の実施主体）<br>（報告元：高知県） | | | | 水産庁水産多面的機能発揮対策事業 |
| | | | | | R2 | 同上 | | 同上 | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.30 | － | サンゴ食害生物や拡大する病気の発生メカニズム、サンゴの採捕や海砂採取の現状、水質汚染に対するサンゴの生育限界など、サンゴ礁生態系への危機要因となりうる主要な課題についての把握・分析をし、必要な対策を検討。 | 3.30.1 | H28 | ・オニヒトデやﾚｲｼｶﾞｲﾀﾞﾏｼの駆除を各地で実施（例：沖縄県・石西礁湖、宮崎県・日南海岸）<br>・環境研究総合推進費により、大学・研究機関が海洋酸性化による影響等を調査研究。 | － | 環境省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.31 | － | 自然公園法に基づく海域公園地区などの重要な地域については、必要に応じて、オニヒトデなどのサンゴを食害する生物の駆除を実施。 | 3.31.1 | H28 | ・6国立公園の9地域において、オニヒトデ等のサンゴを食害する生物の駆除及びモニタリングを実施。 | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 3.32 | － | 健全なサンゴをオニヒトデ等の食害から保護する<br>※3.23.3と重複 | 3.32.1 | H28 | ・昭和48年度から奄美群島国定公園海中公園地区において実施。<br>・平成17年度からは奄美群島の喜界町を除く市町村において、重点海域を設定し実施。 | － | 鹿児島県 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3.33 | － | オニヒトデ対策についての、漁業、観光業等の地元関係者や関係機関との情報共有 | 3.33.1 | H28 | H29年度まで実施したオニヒトデ総合対策事業、平成30年度から実施しているオニヒトデ対策普及促進事業の中で、関係機関と情報共有を図ったり、効果的なオニヒトデ防除対策の普及等を行っている。 | オニヒトデ防除対策の普及 | 沖縄県 | － | H24年度～現在 | なし | 沖縄振興特別推進交付金 |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | | 同上 | － | 同上 | 同上 | 同上 |
| | 3.34 | － | サンゴが着生しやすいブロックの活用、サンゴの移植・移築 | 3.34.1 | H28 | 那覇港（引き続き消波ブロックの表面加工及び据え付けを実施：平成27年度実施、今後も実施予定） | － | 国土交通省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 那覇港（環境共生型等のブロックの据え付けを実施、今後も実施予定） | サンゴの着底・生育 | 国土交通省 | | | | |
| | 3.35 | － | サンゴ移植に関する正しい知識の普及啓発についての取組 | 3.35.1 | H28 | ・県（自然保護課）のホームページやイベントなどによるサンゴの保全などに関する普及啓発の実施。日頃の個別の問い合わせ対応 | サンゴ礁保全の推進 | 沖縄県 | － | － | なし | なし |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | － | － | 同上 | 同上 |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | － | － | 同上 | 同上 |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | － | － | 同上 | 同上 |
| | 3.36 | － | 「サンゴ幼生着床具を用いたサンゴ群集修復マニュアル」などの既存の手引き書の普及・活用の促進を実施 | 3.36.1 | H28 | 石西礁湖自然再生において既存手引き書を活用しているほか、自然再生協議会のホームページに情報を掲載し、普及啓発に努めている。 | | 環境省沖縄奄美自然環境事務所 | | | | |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 自然再生協議会のホームページの一部改修を行う（予定）。 | 普及啓発効果の増加。 | | | | http://sekiseisyouko.com/szn/ | 環境省 |
| | | | | | R3 | 石西礁湖自然再生において既存手引き書や過年度報告書を自然再生協議会のホームページに掲載し、普及啓発に努める。 | サンゴ修復事業の普及。 | | | | | 環境省 |
| | R1New | － | ワークショップの開催 | | R1 | 観光客に対する島民の漁業説明ワークショップ（島民であり、元まぐろ漁師による漁やマグロの食べ方などについてのワークショップを開催） | | 海陽町 | | R元年 | | 海陽町 |
| | | | | | R2 | | | | | | | |
| | | | | | R3 | | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合） | | | | | | | | | | | | |
| | R1New | － | サンゴ食害生物駆除従事者の育成 | | R1 | 宮崎大学の協力を得て、大学生及び地元の一般ダイバーを駆除従事者へと育てる教育プログラムを計画している。 | サンゴ群集の保全に必要なサンゴ食害生物の駆除従事者を確保することができる | 宮崎県 | 日南海岸サンゴ群集保全協議会 | R1～R2 | － | 生物多様性保全推進支援事業 |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | 水産多面的機能発揮対策交付金 |
| | H30New | － | 新たな取り組みがあればご記入ください | | H30 | 香南市手結オニヒトデ及び<br>サンゴ分布状況調査 | 冬季の低水温で斃死したサンゴ群集の状況調査及びオニヒトデの発生状況の調査 | 香南市・黒潮生物研究所・YASU海の駅クラブ(報告元：高知県) | | | | |
| | R1New | － | 新たな取り組みがあればご記入ください | | R1 | 高知県沿岸においてサンゴの分布状況、再生能力を調査 | 沿岸海域の保全活動や資源活用の取り組み、生物多様性の保全 | 高知県・黒潮生物研究所 | | R1～R3 | | |
| | | | | | R2 | 高知県沿岸においてサンゴの分布状況、再生能力を調査 | 沿岸海域の保全活動や資源活用の取り組み、生物多様性の保全 | 高知県・黒潮生物研究所 | | R1～R3 | | |
| | | | | | R3 | 高知県沿岸においてサンゴの分布状況、再生能力を調査 | 沿岸海域の保全活動や資源活用の取り組み、生物多様性の保全 | 高知県・黒潮生物研究所 | | R1～R3 | | |
| | R1New | | | | R1 | 熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていない。引き続き、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、県民に対する普及啓発に取り組み、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取り組みを進められるよう、情報共有及び連帯を図りたい。 | 県内のみならず、他県や国の情報を得て連帯することで、現在未実施である取り組みや調査に必要な材料を集めることができる。集めた情報を基に県民に対し普及啓発をおこなうことで、生態系保全の必要性を広めることができる。 | 熊本県 | | H28年度～R1年度 | | |
| | | | | | R2 | 同上 | 同上 | 熊本県 | | H28年度～R2年度 | | |
| | | | | | R3 | 同上 | 同上 | 熊本県 | | H28年度～R3年度 | | |
| 気候変動への適応・国際的な取組 | | | | | | | | | | | | |
| | 4.1 | － | 気候変動対策・適応に関する業務の推進 | 4.1.1 | H28 | 記載なし | | 環境省（戦略室） | | | | |
| | | | | | H29 | サンゴ礁生態系に係る気候変動への脆弱性評価・適応策<br>検討のモデル的取組（環境省請負業務） | 慶良間諸島国立公園では、脆弱性評価・予測や適応策検討のために必要な情報収集・状況把握ができた。 | | 国立環境研究所 | H29年度～H30年度 | 平成29年度生物多様性分野における気候変動への適応策検討業務 | － |
| | | | | | H30 | サンゴ礁生態系に係る気候変動への脆弱性評価・適応策<br>検討のモデル的取組（環境省請負業務） | サンゴ礁生態系を含む適応策の手引きを作成し、類似の生態系を持つ保護区の保全管理検討に貢献 | | | H29年度～H30年度 | （記載なし） | － |
| | | | | | R1 | （継続ではない案件の認識ですが、その他連事項があればご記入下さい）<br>⇒ご認識の通り、継続ではありません。 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 平成30年度に取りまとめた「国立公園等の保護区における気候変動への適応策検討の手引き」を用いて普及啓発を進める。 | 国立公園等の保護区における適応策を検討する際に参考となる知見を提供することができる。 | | 国立環境研究所 | － | http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/library/files/tekiou_tebiki.pdf | － |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 4.2 | － | 気候変動適応計画推進のための浅海域生態系現況把握調査 | 4.2.1 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | リモートセンシング技術等を活用した主要なサンゴ礁分布調査を実施。<br>平成29年度は沖縄県の石西礁湖並びに石垣島及び西表島の周辺海域において調査を実施し、同海域のサンゴ礁分布図を作成した。また、過去の自然環境保全基礎調査の結果との比較を行い、気候変動等の影響による変化の把握に努めた。 | サンゴ礁の分布について、現況を把握できた。また、調査結果についての問合せが8件程度あった。 | 環境省（生物多様性センター） | － | H29年度～R3年度 | http://www.biodic.go.jp/kiso/44/44_kikou.html#mainText | － |
| | | | | | H30 | リモートセンシング技術等を活用した主要なサンゴ礁分布調査を実施。<br>平成30年度は沖縄県の宮古列島及び久米島の周辺海域、鹿児島県の与論島、沖永良部島周辺海域において調査を実施し、同海域のサンゴ礁分布図を作成した。また、過去の自然環境保全基礎調査の結果との比較を行い、気候変動等の影響による変化の把握に努めた。 | サンゴ礁の分布について、現況を把握できた。 | | － | | http://www.biodic.go.jp/kiso/44/44_kikou.html#mainText | － |
| | | | | | R1 | リモートセンシング技術等を活用した主要なサンゴ礁分布調査を実施。<br>令和元年度は鹿児島県の奄美群島（奄美大島、喜界島、徳之島）の周辺海域において調査を実施し、同海域のサンゴ礁分布図を作成した。また、過去の自然環境保全基礎調査の結果との比較を行い、気候変動等の影響による変化の把握に努めた。 | サンゴ礁の分布について、現況を把握できた。 | | － | | http://www.biodic.go.jp/kiso/44/44_kikou.html#mainText | |
| | | | | | R2 | リモートセンシング技術等を活用した主要なサンゴ礁分布調査を実施。<br>令和2年度は東京都の小笠原諸島の周辺海域において調査を実施し、同海域のサンゴ礁分布図を作成した。また、過去の自然環境保全基礎調査の結果との比較を行い、気候変動等の影響による変化の把握に努めた。 | サンゴ礁の分布について、現況を把握できた。 | | | | https://www.biodic.go.jp/kiso/44/44_kikou.html | |
| | | | | | R3 | リモートセンシング技術等を活用した主要なサンゴ礁分布調査を実施。<br>令和3年度は大隅諸島の周辺海域において調査を実施し、同海域のサンゴ礁分布図を作成した。また、過去の自然環境保全基礎調査の結果との比較を行い、気候変動等の影響による変化の把握に努めた。加えて、過去5年間における本事業成果のとりまとめを実施した。 | サンゴ礁の分布について、現況を把握できた。 | | | | https://www.biodic.go.jp/kiso/44/44_kikou.html | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4.3 | － | ミクロネシア地域における拠点としてわが国が設立を支援したパラオ国際サンゴ礁センターの研究、教育機能などの推進に協力 | 4.3.1 | H28 | 日本の国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（石垣島）とパラオ国際サンゴ礁センターで協力覚書締結（比嘉環境大臣政務官が署名）（H29年度）、覚書を踏まえて石垣上席自然保護官がパラオに渡航・交流（H30年度） | － | 環境省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ― | － | | | | | |
| | | | | | R2 | ― | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| | 4.4 | － | 国際サンゴ礁イニシアティブや国際熱帯海洋生態系管理シンポジウムへの参加を通じ、引き続き国際的なサンゴ礁生態系保全の推進に貢献するとともに、関係諸国とサンゴ礁生態系の保全に関する情報の共有を実施 | 4.4.1 | H28 | ・地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク解析GCRMNの東アジア地域分を主導し、ICRI東アジア地域会合を開催（平成29年２月、平成29年11月、平成30年６月）<br>・毎年度１回ずつ開催されるICRI総会に参加し、東アジア地域の取組報告／ICRIの運営について意見交換 | 国際的なサンゴ礁生態系保全の推進に貢献し、関係諸国とサンゴ礁生態系の保全に関する情報共有ができた。 | 環境省 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク解析GCRMNの東アジア地域分を主導し、ICRI東アジア地域会合を開催（令和元年６月）<br>・毎年度１回ずつ開催されるICRI総会に参加し、東アジア地域の取組報告／ICRIの運営について意見交換 | 国際的なサンゴ礁生態系保全の推進に貢献し、関係諸国とサンゴ礁生態系の保全に関する情報共有ができた。 | | | | | |
| | | | | | R2 | ・地球規模サンゴ礁モニタリングネットワークGCRMNの東アジア地域の活動を主導し、各国のデータを取りまとめ解析を行った。<br>・毎年度１回ずつ開催されるICRI総会に参加し、東アジア地域の取組報告／ICRIの運営について意見交換 | | | | | | |
| | | | | | R3 | ・地球規模サンゴ礁モニタリングネットワークGCRMNの東アジア地域の活動を主導し、各国のデータを取りまとめ、解析を実施。結果として「Status and Ternds of East Asian Coral Reefs 1983-2019」を発行した。<br>・毎年度１回ずつ開催されるICRI総会に参加し、東アジア地域の取組報告／ICRIの運営について意見交換 | 国際的なサンゴ礁生態系保全の推進に貢献し、関係諸国とサンゴ礁生態系の保全に関する情報共有ができた。 | | | | | |
| | 4.5 | － | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターにおける、サンゴ礁の価値や重要性、保全の必要性を訴えるための展示の推進 | 4.5.1 | H28 | ・国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの通常展示の拡充と更新：サンゴ礁の現状や課題／保全・普及啓発の取組等について紹介 | － | 環境省沖縄奄美自然環境事務所 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの開館20周年イベントを開催（予定）。それに伴い常設展示の一部改修を実施。 | 普及啓発効果の増大。 | | － | － | http://kyushu.env.go.jp/okinawa/coremoc/index.html | 環境省 |
| | | | | | R3 | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターにおいてサンゴ礁の価値や重要性、保全の必要性を訴えるための展示を実施。 | 普及啓発効果の増大。 | | － | － | | 環境省 |
| | 4.6 | － | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターやエコツーリズム推進法に基づく取組などを活用しつつ、サンゴ礁生態系の保全に取り組む人の知見や技術レベルの向上のための支援の実施 | 4.6.1 | H28 | ・国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの通常展示の拡充と更新：サンゴ礁の現状や課題／保全・普及啓発の取組等について紹介 | － | 環境省沖縄奄美自然環境事務所 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 自然再生協議会のホームページの一部改修を行う（予定）。 | 普及啓発効果の増加。 | | | | | |
| | | | | | R3 | 石西礁湖自然再生において既存手引き書や過年度報告書を自然再生協議会のホームページに掲載し、普及啓発に努める。 | サンゴ修復事業の普及。 | | | | | |
| | 4.7 | － | 国際サンゴ礁イニシアティブのサンゴ礁と気候変動に関する決議を踏まえ、気候変動に対する適応策を検討 | 4.7.1 | H28 | ・気候変動によるサンゴ分布可能域の将来予測と適応策の検討（慶良間：H-29～H30、足擢宇和海/奄美群島H29～H31） | モデル地域において、気候変動によるサンゴへの影響評価と適応策の検討を進めることができた。 | 環境省（戦略室） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | － | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合） | | | | | | | | | | | | |
| 保護地域・保護地域管理に関する取組 | | | | | | | | | | | | |
| | 4.8 | － | 海域における国立・国定公園の指定・再配置、海域公園地区の指定 | 4.8.1 | H28 | ・新規指定／普通地域（海域）及び海域公園地区の指定（甑島国定公園（平成27年3月）／やんばる国立公園（平成28年9月）／奄美群島国立公園（平成29年3月））<br>・普通地域（海域）及び海域公園地区の拡張を実施（三陸復興国立公園（平成27年3月）／吉野熊野国立公園（和歌山県海岸地域）（平成27年9月）／西表石垣国立公園（平成28年4月）／三陸復興国立公園（平成30年3月））<br>・海域公園地区の面積は55,088.3ha | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | ・普通地域（海域）及び海域公園地区の拡張を実施（利尻礼文サロベツ国立公園（令和3年10月）） | | | | | | |
| | 4.9 | － | 生物多様性の観点及び水産資源管理の観点から重要な海域の抽出 | 4.9.1 | H28 | ・平成28年度：我が国の重要海域を公表<br>（平成28年度以降、沖合域における重要海域を踏まえ、生物多様性の保全のあり方（海洋保護区の設定のあり方）を検討。） | 我が国周辺海域の生物多様性の観点から重要度の高い海域が、生態学的及び生物学的観点から科学的・客観的に明らかになり、各種施策推進のための基礎資料となった。 | 環境省関係省庁 | － | － | http://www.env.go.jp/nature/biodic/kaiyo-hozen/kaiiki/index.html | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 改正自然環境保全法に基づく沖合海底自然環境保全地域の候補地に係る指定調整を進めた。 | 沖合域の生物多様性及び生物資源の保全が図られる。 | | | | | |
| | | | | | R2 | 小笠原方面の沖合域に沖合海底自然環境保全地域4地域を指定した。 | 沖合域の生物多様性及び生物資源の保全が図られる。 | | | | https://www.env.go.jp/press/108741.html | |
| | | | | | R3 | 指定地域におけるモニタリングを行い、保全管理する。 | | | | | | |
| | 4.10 | － | ラムサール条約湿地登録に向けた調整等取組 | 4.10.1 | H28 | 慶良間諸島海域ラムサール条約湿地の登録区域拡大（353ha→8,290ha）（平成27年5月） | － | 環境省（野生生物課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 令和元年度におけるサンゴ礁関係の登録予定は無し | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R2 | 令和2年度におけるサンゴ礁関係の登録予定は無し | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R3 | 令和3年度におけるサンゴ礁関係の登録予定は無し | － | | － | － | － | － |
| | 4.11 | － | ラムサール登録湿地の保全と賢明な利用の推進 | 4.11.1 | H28 | ・パンフレット作成／シンポジウム開催／地元自治体やNGOとの連携による普及啓発活動の推進 | － | 環境省（野生生物課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | － | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R3 | 同上 | － | | － | － | － | － |
| | 4.12 | － | 沿岸・海洋域における海鳥類の重要な繁殖地等については鳥獣保護区の指定に努め、沿岸・海洋域における鳥獣の生息環境の保全を推進する | 4.12.1 | H28 | ・平成27年度：ガン・カモ類やハクチョウ類等の集団渡来地として指定されている最上川河口、蕪栗沼、瓢湖、宍道湖、東よか、肥前鹿島鳥獣保護区や、希少な鳥類であるオオヨシゴイやオオセッカ等の生息地として指定されている仏沼鳥獣保護区の存続を更新。また、ガン・カモ類やハクチョウ類の集団渡来地として指定されている福島潟鳥獣保護区を拡張。<br>・平成28年度：シギ・チドリ類等の集団渡来地として指定されている屋我地鳥獣保護区の存続を更新。<br>・平成29年度：ガン・カモ類やハクチョウ類、ツル類の集団渡来地として指定されている化女沼と出水・高野尾鳥獣保護区の存続を更新。また、オオセッカやチュウヒ、コウノトリ等の希少な鳥類の生息地として指定されている円山川下流域及び大潟草原鳥獣保護区を拡張。<br>・平成30年度：葛西沖三枚州（カモ類やカンムリカイツブリなど多くの渡り鳥の越冬地、休息地）を国指定鳥獣保護区に指定。また、希少な鳥類であるタンチョウ及びトキの生息地として指定している釧路湿原、小佐渡東部鳥獣保護区、セグロアジサシやカツオドリ等の集団繁殖地として指定している仲の神島鳥獣保護区、シギ・チドリ類やガン・カモ類の集団渡来地として指定されている浜甲子園鳥獣保護区の存続期間を更新。 | － | 環境省（野生生物課・計画L） | － | － | － | － |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・希少な海鳥をはじめとした希少鳥獣生息地として指定している小笠原群島鳥獣保護区の存続期間を更新。 | | | | | | |
| | | | | | R2 | ツル類の集団渡来地として指定されている出水・高野尾鳥獣保護区を拡張。 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 希少鳥類等の生息地として指定されている知床鳥獣保護区、小湊鳥獣保護区、三貫島鳥獣保護区及び浅間鳥獣保護区の存続期間更新を更新。 | | | | | | |
| | 4.13 | － | 国立公園における海域の適正な保全と利用のあり方について検討 | 4.13.1 | H28 | ・平成26年度：1つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討<br>・平成27年度：2つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討（うちサンゴ礁/サンゴ群集域を含む地域での検討は1箇所（奄美群島国立公園））<br>・平成28年度：1つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討<br>・平成29年度：1つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討 | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・平成30年度：1つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討 | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R2 | ・令和元年度：1つの国立公園を対象に海域における適切な利用のあり方について検討 | － | | | | | |
| | | | | | R3 | ・1つの国立公園を対象に海域の適正な保全と利用のあり方について検討 | | | | | | |
| | 4.14 | － | 国立公園内での車馬などの利用を制限する区域の指定 | 4.14.1 | H28 | ・平成26～29年度：海域を有する6つの国立公園、4つの国定公園について点検済み<br>・平成30年度：海域を有する1つの国立公園について点検済み<br>（いずれも新たに車馬などの利用を制限する区域を指定する必要性はない） | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ・令和元年度：海域を有する1つの国立公園について点検作業中。<br>（新たに車馬などの利用を制限する区域を指定する必要性はない） | － | | － | － | － | － |
| | | | | | R2 | 同上 | － | | | | | |
| | | | | | R3 | ・海域を有する1つの国立公園について点検済み（新たに車馬などの利用を制限する区域を指定する必要性はなかった） | | | | | | |
| | 4.15 | － | 海洋生態系保全・再生、管理のため、その他、海域の保全の強化を図る取組 | 4.15.1 | H28 | ・マリンワーカー事業（国立・国定公園の適正海域管理推進事費）の実施（海洋生態系の保全・再生・管理への多様な取組）：ウミガメの生息状況調査／海洋環境のモニタリング／利用の軋轢の調整等 | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 4.16 | － | 海域の国立公園内の自然景観や生物多様性の保全に悪影響を及ぼす土砂や汚染物質などの発生源対策を行うため、関係機関との調整・連携を図りながら、必要な対策を検討する | 4.16.1 | H28 | ・西表石垣国立公園の石西礁湖:水質や赤土堆積の影響を把握・予測するためのモニタリングを実施<br>・多様な主体により構成された協議会において必要な対策を検討。 | － | 環境省（国立公園課）<br>関係省庁 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合） | | | | | | | | | | | | |
| モニタリング | | | | | | | | | | | | |
| | 4.17 | － | サンゴ礁、藻場、干潟に関する情報整備 | 4.17.1 | H28 | ・サンゴ礁24サイト、藻場12サイト、干潟8サイトでのモニタリング調査実施（環境省モニタリングサイト1000事業） | － | 環境省（多様性センター） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | サンゴ礁23サイト、藻場6サイト、干潟8サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | | | | | R2 | サンゴ礁21サイト、藻場6サイト、干潟8サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | | | | | R3 | サンゴ礁21サイト、藻場6サイト、干潟8サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | 4.18 | － | ウミガメ類、海鳥、海棲哺乳類などの生息状況等の収集 | 4.18.1 | H28 | ・ウミガメ類41サイト、海鳥30サイトにおける生息状況等の調査で、情報収集を継続的に実施（モニタリングサイト1000事業）。<br>※ただしウミガメ類については、H28及びH29実施せず、H30はサイト設定を見直して実施予定。 | － | 環境省（多様性センター） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | ウミガメ類38サイト、海鳥8サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | | | | | R2 | ウミガメ類35サイト、海鳥8サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | | | | | R3 | ウミガメ類33サイト、海鳥12サイトにおいて引き続き調査を実施。 | － | | － | － | http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html | － |
| | 4.19 | － | ウミガメの産卵地となっている砂浜における、海岸清掃、産卵のモニタリング・監視活動の実施 | 4.19.1 | H28 | ・マリンワーカー事業の実施（国立・国定公園の適正海域管理推進事業費）：2国立公園においてウミガメの産卵地となっている砂浜における海岸清掃／産卵のモニタリング・監視 | － | 環境省（国立公園課） | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 情報収集・整理・発信 | | | | | | | | | | | | |
| | 4.20 | － | 国際サンゴ礁年2018に係る普及啓発の推進 | | H28 | 記載なし | | 環境省 | | | | |
| | | | | 4.20.1 | H29 | オープニングシンポジウムの開催（H30/1/28）に伴い<br>・さかなクンのアンバサダー任命（中川環境大臣より）<br>・企業等13団体のオフィシャルサポーター任命 | サンゴ礁及び国際サンゴ礁年の普及啓発に貢献（シンポジウム参加者概数：300名程度） | | 毎日新聞社（共催） | H30年 | http://www.env.go.jp/press/105070.html | － |
| | | | | 4.20.2 | | ・関係者連携の仕組み作りのためのキックオフミーティング開催(H30/11/30)<br>・国際サンゴ礁年2018活動登録制度の設置<br>・Facebookを通じた情報共有<br>・オフィシャルサポーター制度の設置 | 幅広く多様な主体の取組と連携しサンゴ礁の保全や普及啓発に貢献。 | | オフィシャルサポーター等 | H30年 | https://www.env.go.jp/nature/biodic/sango2018/index.html | － |
| | | | | 4.20.3 | H30 | ・国際サンゴ礁年2018活動登録制度の継続<br>・Facebookを通じた情報共有<br>・オフィシャルサポーター制度の継続<br>・クロージングイベントの開催（予定） | 幅広く多様な主体の取組と連携しサンゴ礁の保全や普及啓発に貢献（7月冒頭時点ではオフィシャルサポーターは20団体を任命）。 | | オフィシャルサポーター等 | H30年 | https://www.env.go.jp/nature/biodic/sango2018/index.html | － |
| | | | | 420.4 | | サンゴマップに係る取組：主にダイビングショップ及び個々のダイバーを巻き込んで、サンゴ礁に係るデータ収集を進めつつ、サンゴ礁保全に対する意識向上・普及啓発を目的として、情報収集及び関連コンテンツの作成等を行う。 | 幅広く多様な主体の取組と連携しサンゴ礁の保全や普及啓発に貢献。 | | サンゴマップ実行委員会 | H30年 | https://www.env.go.jp/nature/biodic/samgomap.html | － |
| | | | | | R1 | 継続案件はない認識ですが、追加の内容あればご記入ください<br>⇒ご認識のとおり、継続はありません。 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 実施なし | | | | | | |
| | | | | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | No. | 行動計画に記載のある目標（行動計画p.21～26） | 活動 | No | 報告年度 | 具体的活動 | 取り組みによる効果 | 実施主体 | 協働先 | 取組実施期間（●年～●年など幅がある場合） | 取組に関する情報公開場所 | 資金源 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4.21 | － | 石垣島民向け普及啓発 | 4.21.1 | H28 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | H29 | 2016年の大規模白化を受けて、石西礁湖の現状やサンゴ礁生態系がもたらす恵みについて島民に知っていただき、豊かな恵みを将来に受け継いでいけるよう、サンゴ礁保全に取り組むきっかけとなることを目的に、シンポジウム『サンゴの海がSOS!? 「教えてさかなクン！　ギョギョッとサンゴのひみつ」』を開催した。さかなクンと琉球大学･土屋誠名誉教授によるサンゴの話の他、タッチプール・魚やサンゴの水槽展示等を行った。 | 石垣市民に対する普及啓発に貢献（参加人数1500人程度） | 環境省那覇事務所 | | H29年度限り | http://kyushu.env.go.jp/naha/pre 2017/sos.html | － |
| | | | | | H29 | 平成29年11月11日に地域住民を主な対象とし強会、「サンゴ礁トークin 宮古2017」を開催した。勉強会では、琉球大学 土屋 誠 名誉教授を招き、講演「サンゴ礁と共に暮らす」を頂くとともに、宮古島市民と土屋名誉教授による座談会、「宮古島のサンゴ礁を考える」を行い、サンゴ礁保全についての情報共有と意見交換を行った。 | 宮古島市民に対する普及啓発に貢献（参加人数52名） | 環境省 | 宮古島市 | H29年度限り | 平成29年度サンゴ礁生態系保全モデル事業実施業務報告書 | － |
| | | | | | H30 | 記載なし | | | | | | |
| | | | | | R1 | 継続案件はない認識ですが、追加の内容あればご記入ください<br>⇒ご認識のとおり、継続はありません。 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの開館20周年イベントを開催（予定）。それに伴い常設展示の一部改修を実施。 | 普及啓発効果の増大。 | | | | | |
| | | | | | R3 | 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターにおいてサンゴ礁の価値や重要性、保全の必要性を訴えるための展示を継続する。 | 普及啓発効果の増大。 | | | | | |
| | 4.22 | － | わが国のサンゴ礁などに関する研究や保全などの情報の収集・整理 | 4.22.1 | H28 | ・八重山諸島周辺で環境省が実施したサンゴ礁の調査や保全事業の報告書を中心に200点ほどの報告書を収集<br>　・国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターの閲覧室に保管・データベース化<br>・八重山諸島周辺で行われた調査内容の取りまとめ、評価検証用資料集作成<br>・各種報告会や国際会議への参加を通じた国内外の情報収集<br>・関係者へのヒアリング等を通じた国内外の情報収集 | － | 那覇自然環境事務所 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 4.23 | － | 収集・整理した情報の国内外への発信 | 4.23.1 | H28 | ・石西礁湖再生事業に関する情報や報告書等の発信（国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターホームページ）<br>・研究者等からの情報提供に関する照会に対応<br>・JICA等海外のサンゴ礁生態系保全に関する行政研修の受け入れを通じた情報発信 | － | 那覇自然環境事務所 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 同上 | | | | | | |
| | 4.24 | － | 情報収集整理・発信のために必要な体制の強化 | 4.24.1 | H28 | ・ホームページや会報誌（ラグーン）により適宜情報発信を行っているが、専門スタッフがいないため、体制の強化に至っていない。<br>・特に、収集された情報をより効果的に整理し、吟味解析し、公開発信するには統合解析が可能な専門スタッフが必要である。 | － | 那覇自然環境事務所 | － | － | － | － |
| | | | | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | | | | R2 | 石西礁湖自然再生協議会、学術部会、陸域・海域部会を開催（予定）。今年から学術部会の下に、「作業チーム」を設置し、学術的な観点でデータ解析方法、評価、必要な対策の検討を開始した。 | | | | | | |
| | | | | | R3 | 石西礁湖自然再生協議会や国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターホームページにおいて整理した情報を発信した。 | | | | | | |

# サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020における取組結果

## 附属表　1.22,1.23に関する取組

重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組

栄養塩類流出防止に向けた取組

事業排水規制による対策

| | 実施主体 | 年度 | 活動 | 具体的活動 | 取組実施期間 | 取組に関する情報公開場所（WEBサイト・報告書名等） | 資金源（交付金など使用している場合は） | 取り組みによる効果 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **1.22　◆水質環境保全の啓発推進** | | | | | | | | | |
| 1.22.1 | 東京都 | H28 | 該当する事業なし | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R2 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R3 | （記載なし） | | | | | | |
| 1.22.2 | 和歌山県 | H28 | 事業排水規制による対策：生活排水等の処理 | 環境基準の達成が困難な都市部や住宅密集地に隣接した水域について、必要に応じて生活排水対策重点地域を指定し、対象水域の流域市町村に生活排水対策の実践を促すことで公共用水域の保全を図る。 | 取組継続中 | － | － | 重点地域2箇所 | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | | | | |
| | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | | | | |
| 1.22.3 | 徳島県 | H28 | （記載なし） | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R2 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R3 | （記載なし） | | | | | | |
| 1.22.4 | 愛媛県 | H28 | 愛媛県内6水域11市町で生活排水対策重点地域を指定 | 生活排水対策重点地域の詳細と指定については、別添一覧表のとおり。 | 平成30年度は新たな指定の予定なし | なし | なし | 新たな重点地域の指定はない。 | 下水道整備事業は各市町で実施。愛媛県で下水道事業はなし。 |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | R2 | （記載なし） | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | R3 | （記載なし） | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 1.22.5 | 高知県 | H28 | （記載なし） | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R2 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R3 | 実施なし | | | | | | |
| 1.22.6 | 長崎県 | H28 | 生活排水対策重点地域活動促進事業補助金の交付 | 重点地域を有する市町が行う生活排水対策の啓発事業等に対して県が1／2の補助を行った。 | ～H29年度 | なし | 県費 | 自治体が実施した生活排水の普及・啓発活動を通じて地域住民の意識の向上が図られた。 | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 該当する事業なし | | － | － | － | － | － |
| | | R1 | 該当する事業なし | | | | | | |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 実施なし | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.22.7 | 熊本県 | H28 | 熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていない。<br>昨年に引き続き、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取組みを進められるよう、情報共有及び連携を図りたい。 | | H28年度～H30年度 | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていない。引き続き、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、県民に対する普及啓発に取り組み、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取り組みを進められるよう、情報共有及び連帯を図りたい。 | | H28年度～R1年度 | － | － | － | － |
| | | R2 | 同上 | | H28年度～R2年度 | | | | |
| | | R3 | 同上 | | H28年度～R3年度 | | | | |
| 1.22.8 | 宮崎県 | H28 | 水質悪化によるサンゴへの被害が確認されていないため、本県該当なし | | － | － | | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 1.22.9 | 鹿児島県 | H28 | 汚水処理人口普及率の向上 | 地理的な条件として人口散在地域が多いことなどから，生活排水処理施設の整備状況は地域差が大きいが，地域の特性を踏まえ，下水道，農業・漁業集落排水施設，浄化槽など生活排水処理施設の整備を効率的・計画的に進めている。なお、和泊町，知名町においては，全国の汚水処理人口普及率89.9%を大きく上回っている。(鹿児島県の普及率：77.7% )(H28)<br>※H30は、全国の汚水処理人口普及率91.4%、鹿児島県81.1% | H8年度～現在 | http://www.pref.kagoshima.jp/infra/toshi/haisui/hukyuritu/index.html | 社会資本整備総合交付金 | 生活排水処理施設の整備を行う事で汚水処理人口普及率が向上し，公共用水域の保全につながる。 | 担当室：都市計画課生活排水対策室 |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | ※R元は、全国の汚水処理人口普及率91.7%、鹿児島県81.9% | 同上 | http://www.pref.kagoshima.jp/ah11/20200904.html | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 1.22.10 | 沖縄県 | H28 | 生活排水による汚濁が著しい河川等の水質環境保全の啓発 | 市町村の生活排水対策に資するため、ホームページに生活排水対策や生活排水対策重点地域に係るパンフレットを掲載するなどし、水質環境保全の啓発を行う。 | 毎年度 | http://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/hozen/mizu tsuchi/water/life drainage.html | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |

## 1.23 ◆水質関係事業所等監視指導

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.23.1 | 東京都 | H28 | 該当する事業なし | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | （記載なし） | | | | | | |
| | | R2 | | | | | | | |
| | | R3 | | | | | | | |
| 1.23.2 | 和歌山県 | H28 | 水質関係事業所等監視指導 | 水質汚濁防止法に基づく特定事業場への立入を行い、事業場から公共用水域へ排出される排水が基準に適合するよう指導を行い、公共用水域において環境基準を達成できるよう努める。 | 取組継続中 | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | | | | |
| | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | | | | |
| 1.23.3 | 徳島県 | H28 | （記載なし） | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | （海陽町より報告）<br>管路等施設の適切な維持管理 | （海陽町より報告）<br>集落排水事業、下水道事業、合併浄化槽事業などにより、海域の水質保全を保つ | | 海陽町役場上下水道課<br>https://www.town.kaiyo.lg.jp/soshiki/honcho/jogesuido/ | | | |
| | | R2 | | | | | | | |
| | | R3 | | | | | | | |
| 1.23.4 | 愛媛県 | H28 | 県下の事業場（松山市内を除く）を対象として、法又は条例に定める排水基準の遵守状況を監視するため、抜き打ちで立入調査 | 不適合事業場に対し、指導。 | H28年度～H30年度 | なし | 県費 | 364事業場立入　不適合3件(H28)<br>342事業場立入　不適合7件(H29 )<br>345事業場に立入予定(H30) | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | 同上 | H28年度～R1年度 | 同上 | 同上 | 364事業場立入　不適合3件(H28)<br>342事業場立入　不適合7件(H29 )<br>345事業所立入<br>不適合3件（H30）<br>331事業場に立入予定(H30) | |
| | | R2 | 同上 | 同上 | H28年度～R2年度 | 同上 | 同上 | 約300事業所に立入予定（R2） | － |
| | | R3 | 同上 | 同上 | H28年度～R3年度 | 同上 | 同上 | 約300事業所に立入予定（R3） | － |
| 1.23.5 | 高知県 | H28 | 水質汚濁防止法に基づく特定事業場への立入を行い、事業場から公共用水域へ排出される排水が基準に適合するよう指導を行う。 | | 毎年 | － | － | 59事業所検査、指導件数2件（土佐清水市3事業所検査、指導0件） | ― |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | | 毎年 | | | ― | ― |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 同上 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.23.6 | 長崎県 | H28 | 法に基づく特定施設、条例に基づく指定施設に対し立入検査を実施し、届出内容の確認及び維持管理状況等の確認を行っている。排水基準適用の工場・事業場に対しては水質検査を実施している。 | 水質汚濁防止法や未来環境条例に基づき、立入検査を行い、法・条例に違反し又は違反する恐れのある場合は速やかな改善を指導し水環境の保全を図っている。 | H28年度～<br>H30年度 | － | － | 立入検査件数<br>1,807件(H28)<br>1,725件(H29)<br>1,690件(H30) | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 法に基づく特定施設、条例に基づく指定施設に対し立入検査を実施し、届出内容の確認及び維持管理状況等の確認を行っている。排水基準適用の工場・事業場に対しては水質検査を実施している。 | 水質汚濁防止法や未来環境条例に基づき、立入検査を行い、法・条例に違反し又は違反する恐れのある場合は速やかな改善を指導し水環境の保全を図っている。 | R1年度 | － | － | 立入検査件数<br>1,230件（R1：目標） | |
| | | R2 | 同上 | 同上 | R2年度 | | | 立入検査件数<br>1,189件（R2：目標） | － |
| | | R3 | 同上 | 同上 | R3年度 | | | 立入検査件数<br>1,105件（R3） | － |
| 1.23.7 | 熊本県 | H28 | 熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていない。<br>昨年に引き続き、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取組みを進められるよう、情報共有及び連携を図りたい。 | | H28年度～H30年度 | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていない。引き続き、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、県民に対する普及啓発に取り組み、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取り組みを進められるよう、情報共有及び連帯を図りたい。 | | H28年度～R1年度 | － | － | － | － |
| | | R2 | 同上 | 同上 | H28年度～R2年度 | | | | |
| | | R3 | 同上 | 同上 | H28年度～R3年度 | | | | |
| 1.23.8 | 宮崎県 | H28 | 水質悪化によるサンゴへの被害が確認されていないため、本県該当なし | | － | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | | | | | | |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 1.23.9 | 鹿児島県 | H28 | 公共用水域の水質の汚濁防止を図り，住民の健康を保護し生活環境を保全する。 | 公共用水域の水質汚濁防止を図るため，工場，事業場に立入検査し，排出水の監視を行い，必要に応じて水質の改善を指導する。 | 昭和46年～ | 無 | － | 排水汚濁負荷低減による公共用水域の水質状況改善が期待できる。<br>行政措置24件(H28),30件(H29),　件（H30） | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | 同上 | | | | | |
| | | R2 | 同上 | | | | | | |
| | | R3 | 同上 | | | | | | |
| 1.23.10 | 沖縄県 | H28 | 特定事業場の排出水に係る立入検査 | 水質汚濁防止法第22条の規定により、各保健所職員が特定事業場に立ち入り、水質の検査を行い、必要に応じて排出水が排水基準に適合するよう指導を行う。 | 毎年度 | － | － | － | － |
| | | H29 | 同上 | | | | | | |
| | | H30 | 同上 | | | | | | |
| | | R1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| | | R2 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | |
| | | R3 | 同上 | 同上 | 同上 | 沖縄県環境部環境政策課発行の『環境白書』に排水基準監視及び行政措置の状況について公表している。 | 同上 | | |